銀河戦国群雄伝
8
ライ
真鍋譲治
Dengeki Comic
EX
銀河戦国群雄伝ライ
8
真鍋譲治
DE-5-2

¥100
BOOK・OFF

1910379009506

ISBN4-07-300370-4

C0379 P950E

発売●主婦の友社　発行●メディアワークス　定価950円(本体922円)

DENGEKI COMICS EX

フォーチュン・クエスト ①② 迎 夏生COMIC 深沢美潮STORY
エンジェルアーム ①② 衣谷 遊
ダンジョン・マスター 栗橋伸祐
電撃摩陀羅海賊本 ① 田島昭宇 原作 with MADARA PROJECT
銀河戦国群雄伝ライ ①②⑦⑧ 真鍋譲治
イース ⑤ 羽衣 翔
MADARA 赤 LASA① 田島昭宇
MADARA 壱 ①② 田島昭宇
電撃丸(コミックアンソロジー) ① 衣谷 遊・夢来鳥ねむ・MEIMU他
KISS MEIMU COMIC・今関あきよし STORY・大嶋拓 WORDS

DENGEKI COMICS

ローンナイト2 ①② 吉富昭仁
ヤンキーTURBO―最後の爆走― 山本よしふみ
トライアルかおる! ① 山本よしふみ
サボテンロード (上)(下) 迎 夏生
爆れつハンター ① 臣士れい 作画 あかほりさとる 原作

月刊電撃コミック GAO ガオ
アクティブ ヒーローコミック
毎月27日発売

PC EX

銀河戦国群雄伝ライ 8

真鍋譲治

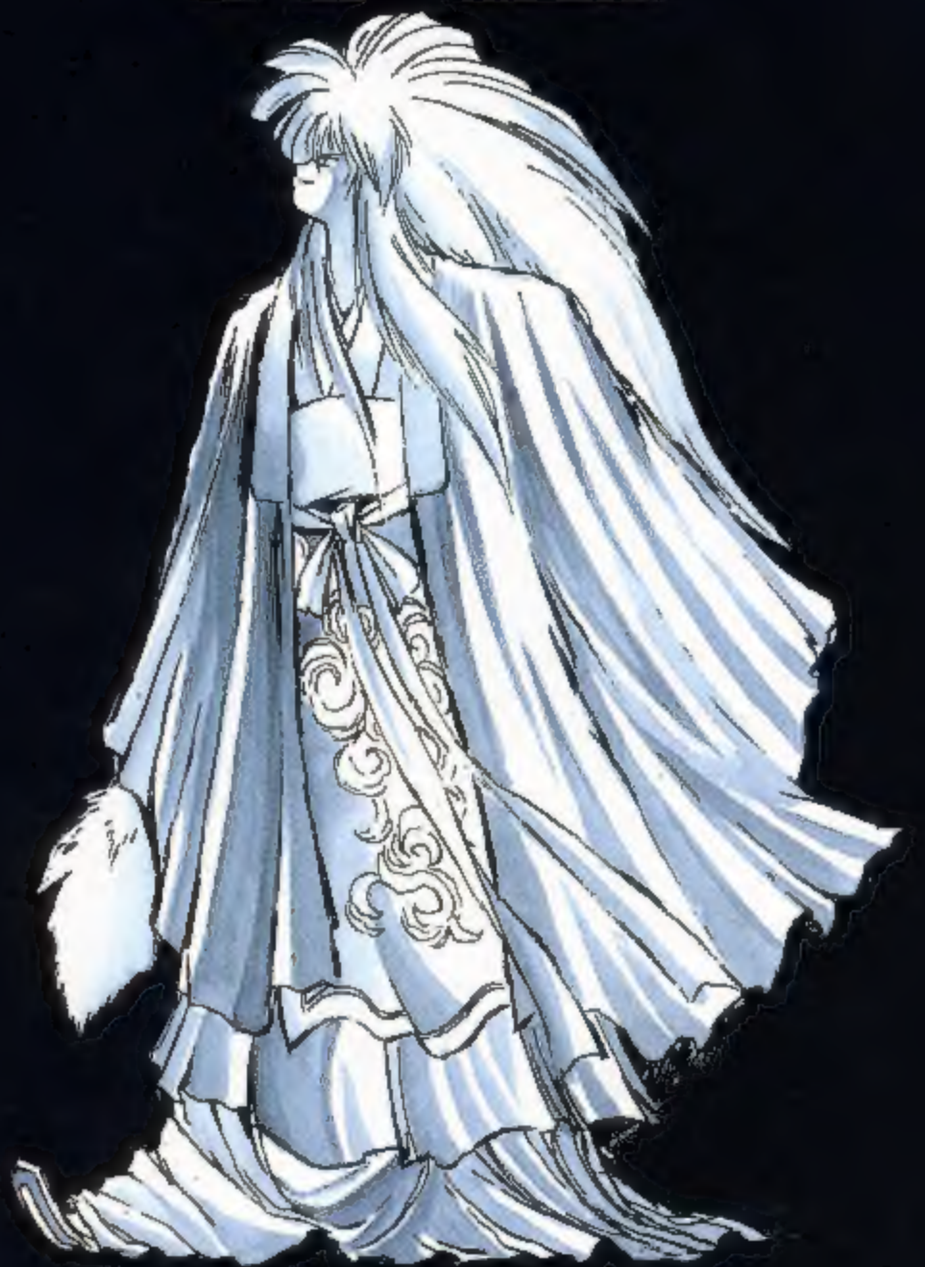
DE-5-2

発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

DengekiComics

RAI

BY JOJI MANABE



8

銀河戦国群雄伝

ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
NAOAKI ARAKAWA
ANRI KOMATSU

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
HIROYUKI HIRAYAMA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OHKITA

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼牙に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座王都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響き渡る。退却戦において正宗に一騎討ちを挑むが破れ、瀕死の重傷を負うが、その傷が癒えぬうちに、元宮廷勢力による反乱の鎮圧に出動し、たちまちのうちに制圧する。その功により騎都尉に昇進、だがその運気がただならぬと感じた玄偉陣営によって都から遠ざけられ、国境の要衝南京楼に大守として赴任する。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を自軍に軍師として迎えるのである。

【大覚屋師真】だいがくやしし

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だがその知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがてその南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹主禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として敵でもある雷の元に預けられる。だが雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も雷を陰に日向に支えていく気丈な娘である。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に仕える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始雷と行動を共にし、時に暴走する雷を諫める役に回ることもある。雷の密命を受け、暴政下の武王都に残り、麗羅の保護を任される。

【太助】たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でも

ある。終始、雲海と共に雷の側にあり、雷も彼らといる時だけは昔の悪がき時代に戻った安らぎを得られる。

【孟関】もうかん

冷静で勇猛な剛将であり、南征以後、常に副官として経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識を基に、よく雷を助け、その糊業に重きをなす。

【三楽斎】さんらくさい

南京楼軍の武将。主人運が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟関らにはよく思われていないが、彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する。

【鐘士元】しょうしげん

南京楼軍の武将。雷の師団長時代以来の宿将。勇猛果敢、常に先鋒を受け持ったが、師真のような新参者とは反りが合わず、常に対立する直情型の武将である。

【姚文】ようぶん

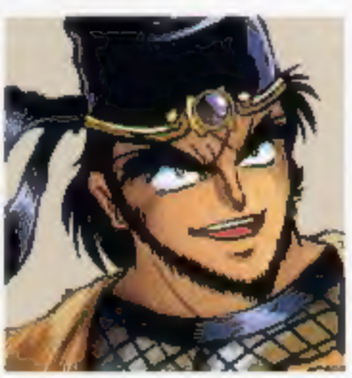
南京楼軍の武将。鐘士元らと共に雷の股肱の臣である。やはり師真らとは合わなかったが、その命には逆らわず、よく戦い、骸羅討伐の前哨戦を勝利に導く。戦のプロとして、常に戦塵の中に身を置いた。

【項馬】こうえん

南京楼軍の勇将。南天との国境近くに根拠を持ち、部下三千を従える大海賊。やがて雷の度量の大きさに感服して帰順、齢七十になんなんとするが、水を得た魚のように活躍する。まさしく老いの一徹とはこのことである。

【項武】こうぶ

項馬の息子で怪力無双の暴れ者。八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。父と共に雷に帰順し、その武勇を買われ、常に先鋒を任される。実線部隊の親玉という役柄であるが故に、多分に深慮遠謀に欠けるところもあったが、千軍万馬の強者である。



【林則嘉】りんそくか

南京楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされずにいたが、城内に出入りしている間に師真に見い出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さをもって数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。だが師真の唱える「覇」には疑問を持つ。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の四つ下の弟で大覚屋の跡取り。兄師真のような縦横無尽の才略には欠けるものの、その思慮深く、篤実な人となりで多くの人に一目置かれた。兄師真の実力を知る数少ない理解者である。父の後を継ぎ、雷を財政面で強く援助する。

【骸羅】がいら

五丈四天王の一人。身の丈2㍍以上の体格と怪力の持ち主。狼刃と共に弾正の旗揚げからの宿将。一騎当千の武将で各地を転戦、弾正の死後、対立する玄偉、鳳鳴二将を切り、麗羅を立てて全権を掌握、事実上の独裁者となる。その政治は悪政を極め、五丈の民に塗炭の苦しみを強いることになる。

【骸延】がいえん

骸羅三兄弟の末弟。武勇一辺倒の兄達とは違い、華玉と共に李張の元で学んだ知謀の士であり、将来を嘱望されていた。兄骸羅の武勇を背景に天下取りを画策し、麗羅を担ぎ上げ五丈中枢を乗っ取る。また、練との秘密軍事同盟を締結、正宗との対決に備える。無類の権謀家である。南京楼の増強を危惧する。

【骸山】がいざん

骸羅三兄弟の次兄。兄骸羅と共に幾多の戦場を渡り歩いた武人であり、無双の剣の使い手である。いわば戦のプロとして、今までの生涯を戦陣のうちに送ってきた骸羅軍きっての猛将である。

【馬元宇】ばげんう

骸羅王朝の武将で、翌雪旅順の守将。旅順は

天然の要害と多数の砲を配備する難攻不落の大要塞であったが、師真の火計により、いともたやすく陥落する。

狼刃 ろうは

五丈四天王の一人。知勇を兼ね備えた女将であり、雷の才能を早くから見抜き、その行く末を暖かくかつ厳しく見守る。女傑正宗に刺激され、南天進攻の先鋒を買って出て雷にその先陣を任し、麾下の第二軍を率いて南天に雪崩込む。敗戦の責任を取らされるが後復職。雷に南京楼赴任を勧め、時を待つように諭す。

羅羅 れいら

男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がままし放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうともした。弾正の死後、骸羅と結び五丈を乗っ取る。

羅候 らこう

練国国主。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国、智に従属していたが、徐々に勢力を広げ、正宗にも一目置かれる存在になる。南蛮王国王女、邑峻を嫁取り、その地盤を強固なものにする。正宗の北伐時には隙を突き、南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗の失脚を図る。

邑峻 ゆうしゅん

南蛮王琥瑛黒洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。練と南蛮との連携を強めるために羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従

えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修業は熱心だった。得意料理は七色餃子のてんこ盛り。

姜子昌 きょうしょう

練国きっての名将。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し練国の発展に尽力する。正宗による早期銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込むのに成功する。

蹄庖 ていほう

練の若き武将。姜子昌の右腕とも言われるのが参軍校尉蹄庖である。知勇に秀でて、智、五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け奮闘する。

【琥瑛覇洲】くえいばす

年老いた南蛮国国王。羅候の父羅鵠とは義兄弟の間柄である。天下争乱の時を迎え、危篤状態に陥った彼は、娘婿である羅候に国を譲る決心をし、衆議も一致、練と南蛮は羅候を王に戴くことになる。

【夏侯獣】かこうじゅう

南蛮王。琥瑛覇洲に仕える名将。南蛮の名門夏侯氏の頭領でもあり、老齢ながら任侠気溢れる豪傑。羅候にも好意を寄せており、王位を譲ろうとする南蛮王の意志を積極的に支持する。

【夏候牙・夏候才】かこうが・かこうさい

夏侯獣の息子で、二人とも武勇に秀でた若者である。父と違い、彼らは羅候が南蛮王位を継ぐことに反発、病気見舞いで訪問した羅候の暗殺を企てるが失敗。逃亡した先で夏候牙は自決、夏候才は投降し、羅候に帰順する。

【李張】りちょう

弾正の元軍師。弾正の挙兵と同時に弾正に軍師として迎えられ、その覇業に大いに貢献。引退して隠居生活しているが今も、五丈軍に対して隠然たる力を持つ。その弟子には華玉、骸延など知謀の士が多い。

【闡々】らんらん

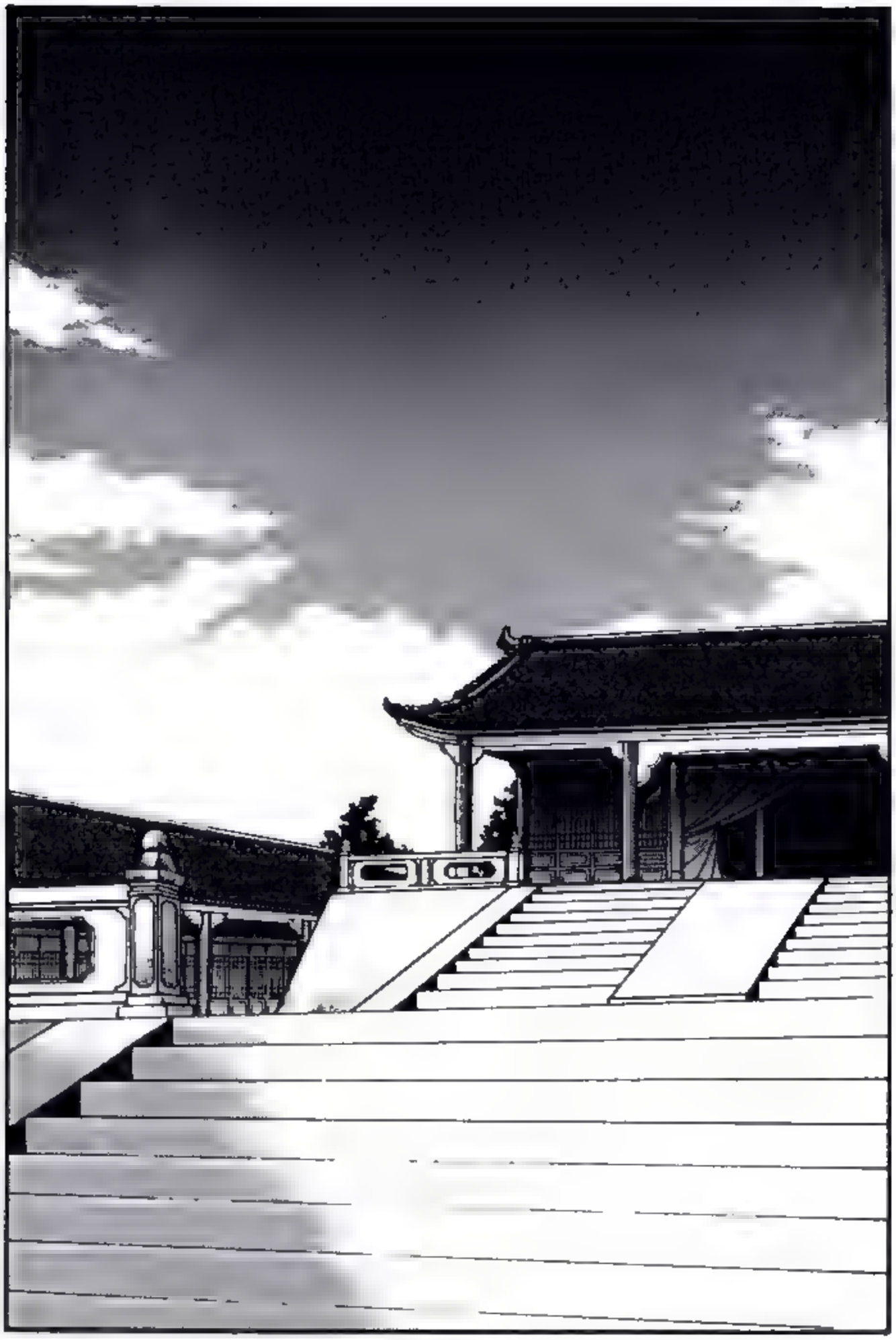
華玉の妹。共に李張の元で学ぶ。道士としての能力は未知数だが、今は紫紋の元で身の回りの世話をしている。幼い割にはしっかりしていて、荒くれ者の印象がある雷の元に嫁ぐ紫紋の身を案じていたが、今では雷を少しは見直したようである。

【独眼竜正宗】どくがんりゅうまさむね

父先代正宗の死後、弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将ながらその戦略、行動力で、南天連合軍の盟主として五丈の南征を頓挫させた。戦後、南天最大のライバル明を攻め滅ぼし、残る趙、孟を併合し、練にも服従を強い、事実上南天を統一する。

【虎丸】とらまる

正宗の弟。智の嫡子である。国政、軍事を姉である正宗に全て任せているが、正宗の命により、練の羅候との修好のために義兄弟の契りを結ぶ。北伐の際、正宗失脚のために智王に祭り上げられる。



おーい
紫紋――!!
将軍!
お待ち下さい!
おっかしいな
どこ行ったんだよ
将軍!
将…!
何だよ
さっきから
うるせえな

自分の嫁を捜して何が悪いんだよ
いやですからしきたりというものがございまして…
どうぞ控えの部屋の方で…
将軍はお席にお着きあそばされ姫君をお迎えなされるという手順になっております
なんだよめんどくせーな俺はそーいう形式がかったのきらいなんだ
紫紋は俺が連れてくるおまえはいいから元帥の相手でもしてろよ
し…しかし…！その狼刃様の手前もありましてやはりしきたりを順守いたした方が…その……
やれやれまいったなこりゃまた破天荒な挙式になりそうだわまったく…

雷！
いたいた
なんだ
こんなとこに
いたのか
支度できたか
え…ええ
でも迎えが
来るって
三楽斎殿が
いいんだよ
そーいう面倒
くせーのは
一切なしだ！
行こーぜ
きゃっ
ちょ…
ちょっと！
待たんかい！
この礼儀知らずが
目上の者に
あいさつもせんで
まだ姫君との
話が終わって
おらんわい！

今さら何の話だよ説教なら宴席の後にしてくれよ！
いいからしばらく待っておれせっかちめが!!
雷！道師様は危ない時わたしをかくまってくれた恩人よお願いちょっと待ってて
そうかぁ……仕方ねえな
ほれほれおまえさんは外にでておれ
なんでだよ!!
嫁の心得を説くんじゃだんなは向こう行け
じいさん繁紋につまらんこと吹き込むんじゃねーぞ！
いいから早く出んかい！
くすくす

もう
雷ったら
ったく
困っただんな
じゃのう……
じゃが
まあ案ずる
ことはない
男はあれくらい
乱暴な方が
いいわい
こーいう御時世
じゃしのう
ええ……
心得て
ます
こうして竜我雷は
めでたく
紫微姫を
妻に迎えたのであった

思えば
亡き比紀弾正の
葬儀で出会って以来
自分の父を
殺された娘と
その敵であった男の
戦乱の時代ならではの
挙式であった

今
それを乗り越え
多くの戦友らに
祝福され
晴れて夫婦と
なることが
できたのである

やがて
夜を迎え
夜もたけなわ
になった

どうした
もう酔ったのか
雷?

いや――
元帥から
酒をついで
もらうなんて
光栄だなー
この――
また
心にもない
世辞を
言いおって
それにしても
少しは大人に
なったようだね
もう昔のように
悪ガキ扱いは
できないな
へっへーん
恐れいったか！
口の悪さだけは
変わらんけどな
ははは
ふふ
そろそろ頃合
だな

!!
どーしたどーした風でも吹いたか？
ははは晴間の中での寒もまた風流だな
続けろ続けろ
わはははは

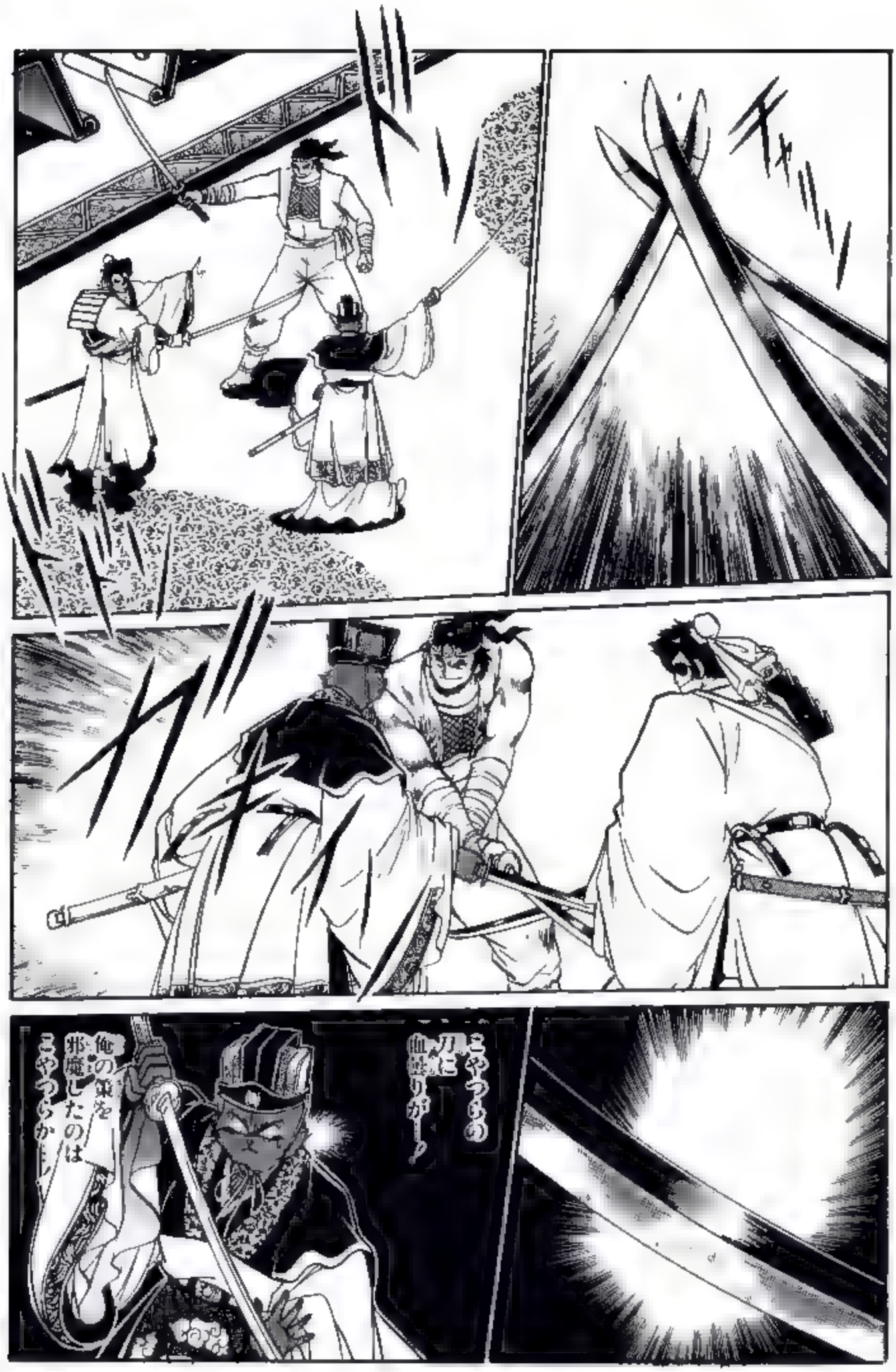
終わったな…
しかし こう暗いと 新郎新婦の お顔まで 見えんでは ないか
おいっ 明かりを!
!!

ば…ばかな
しくじった
のか……!!
ぎょっ!!
どうなされた
該延殿?
料理に虫でも
入ってたかい?
えっ……
いや…

将軍
この度の御婚礼
あい整いしこと
まことにめでたく
存じ
この鐘士元
無骨ながら
剣舞を舞いたく
存じ上げます
へ――
おまえの舞を
見れるなんてな
さて
古来
剣を舞うには
相手ありと
申しますな……
!!
骸延殿!!

お客人を
誘うなど
無礼では
ございますが
今は
宴の席
……
骸延殿は
剣の腕も
素晴らしいと
お聞きいたします
共に舞って
いただければ
光栄でございます
わかり申した
不肖ながら
一差しお相手
いたしましょう
かたじけない

へへ
こいつは
おもしれえ
俺も混ぜて
くれ！


こやつらの刀に血塗りが！
俺の策を邪魔したのはこやつらかよ！

うわははは
やめいやめい
祝いの席で
男の剣舞など
暑苦しいわ!!
先生!
助かった……
そうじゃろ
骸延!
殺し合いでも
なかろうて
はははあ
そうですね
どうじゃな
ここはひとつ
奥方の舞でも
見てみたい
もんじゃ
え?
あ——
そりゃいいや
そーいや
俺も
見たことねえな
ひとつ頼むぜ
え——でも
あたし
舞なんて……!!
よーし
口直しに
紫紋が舞を
見せて
くれるぞ!!
ちょっと
雷!!

いや
饒延殿
お見事で
ございました
今日は無礼講
失礼を
お許し下され
い…いや
そなたたち
こそ
くそう
何たることだ…!!
あの一人明らかに
殺気があった
ここで儀羅軍の
知恵袋である
俺を斬って
気に反旗を
掲げようと
いうのか!!
ニヤ♡
命拾いしたな!
あいつか~!!
ﾊﾟｷﾊﾟｷ

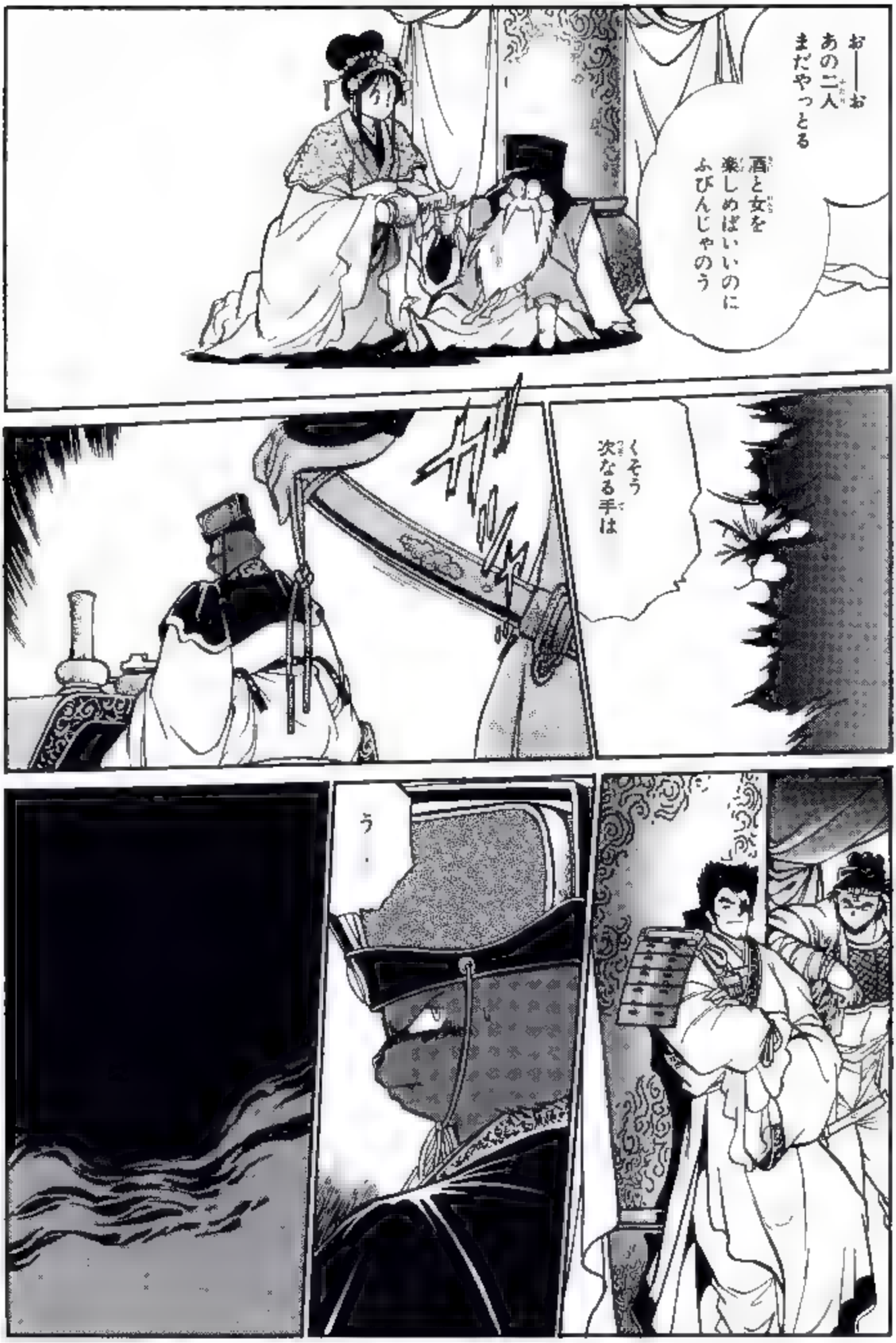
ポケー…
おそまつで
ございました
やれやれ
これで少しは
場が和らぐわい
ったく
最近の若いもんは
血ばっかり
見たがるのう
さすがは
銀河一とも
語られている
奥方様の舞で
ございますな
竜我将軍
へへ
よくわかんねえ
けど
きれいには
違いないな

おお
月も美しい
ようだ
どうですかな
酔いざましに
庭にでも
おう
いいぜ
おっ
孟閣
どこ行って
たんだ?
いや
ちょっとな
はは…庭で
立ち小便か?
わはは
立ち小便か
そりゃいいな
ネズミ共に
引っかけて
くれたわ
それじゃ
ネズミ共は
大慌てしたろ
ふふふ
ちげえねえ

いや
今宵は楽しく
すごさせて
いただき
ました
美しい姫君を
娶られ
まったく竜我殿が
うらやましい
くそう
庭にも
兵を伏せて
おいたのでは
ないのか…!!
今は竜我一人!
またとない
機会だぞ
どうした!!
ふ――
夜風が
気持ちいいな
……

ささ
そろそろ
参りますかな
主役不在では
宴もしらけて
しまいますしな
ああ
そうするか
ここもか…!!
いや
また機会は
ある
我が策を
全て見抜くことは
できん!!
たとえ
あの男でも…!!

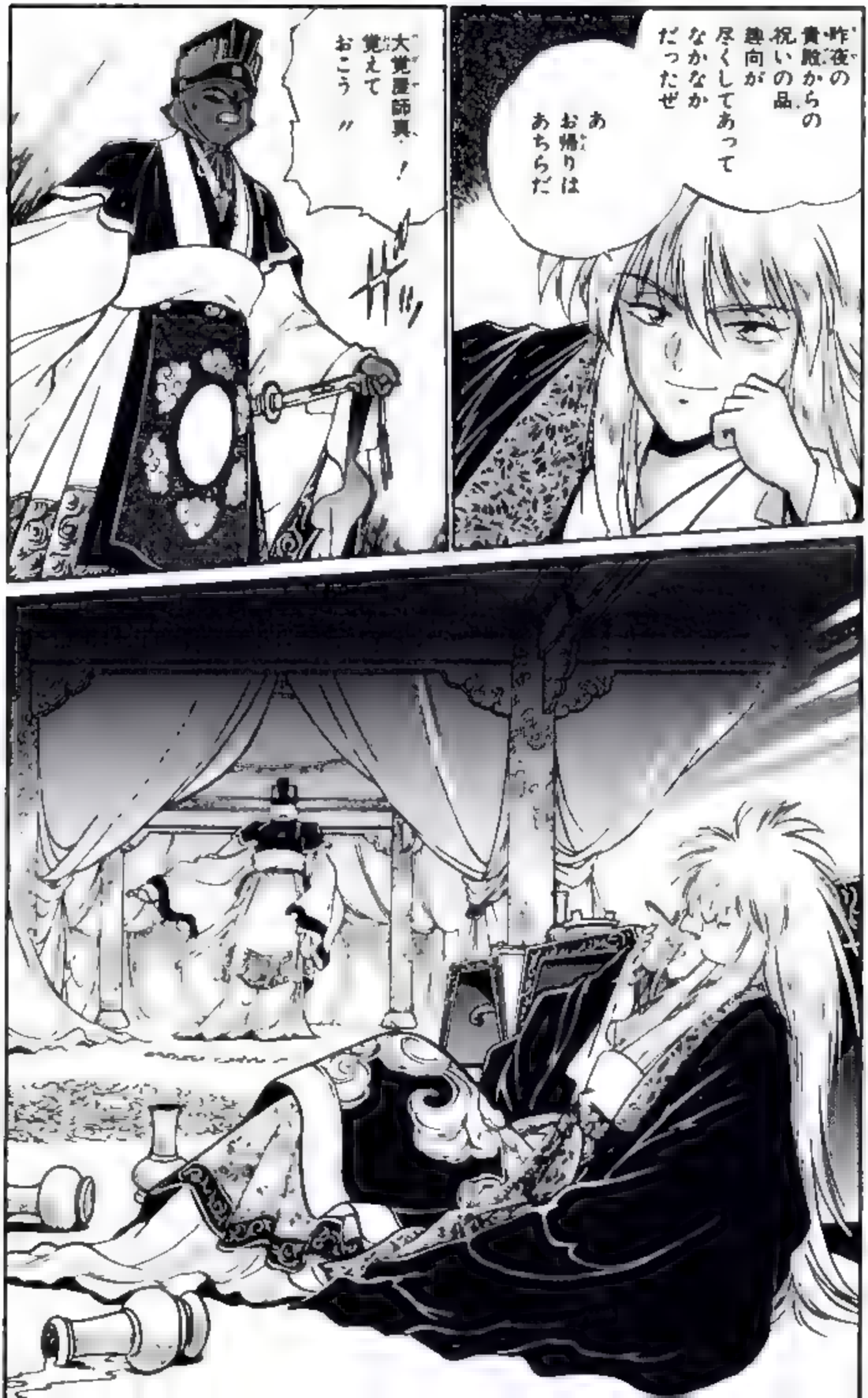
師真は
豚延との対決は
避けた
それは
自分の存が決して
見ることが
できない
Nの戦いだった
豚延が
刺客を
繰り出せば
師真は
それを先んじて
防いだ


お――お
あの二人
まだやっとる
酒と女を
楽しめばいいのに
ふびんじゃのう
くそう
次なる手は
う・

はあはあ
間違いない敵にも忍びの心得がある者がいる!!
!!
うっ!!

ぐはっ!!
まだ竜我を殺すわけにはいかないんだよ

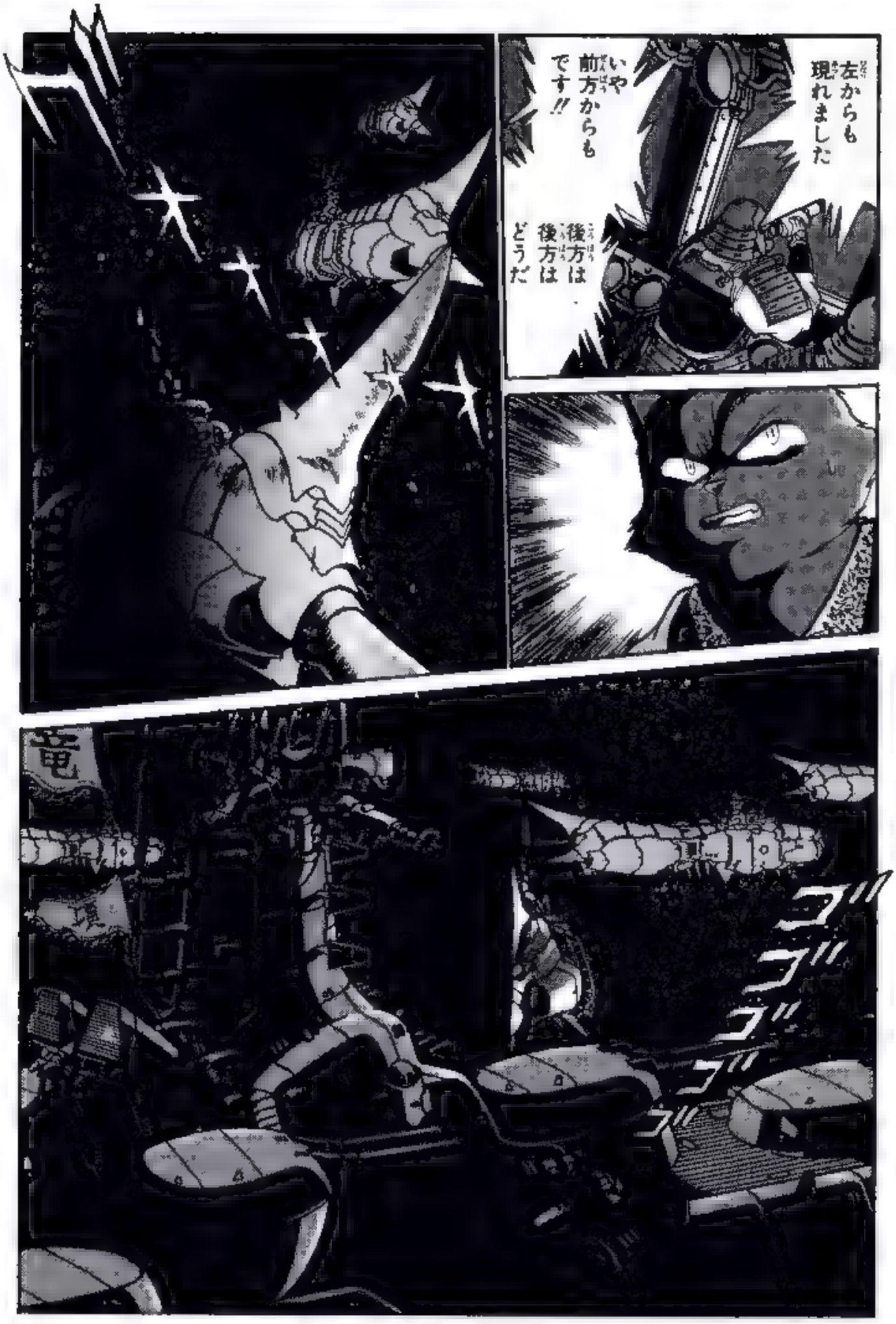
骸延殿


昨夜の貴殿からの祝いの品、趣向が尽くしてあってなかなかだったぜ
あお帰りはあちらだ
大覚師真！！覚えておこう〃

ドドドドド
くそう このままではおかんぞ！
この南京楼を跡形もなく吹き飛ばしてくれるわ！
待機している艦隊に伝えよ 集結予定地に回航！ 我々が戻り次第南京楼を砲撃せよとな!!
やつらはまだ酔いつぶれている この機会を逃すな!!

どうした
集結地点に
艦影が
見当たらん
ではないか
無線封鎖を
解け！
呼んでみろ
う・っ！
あれは……

こ…これは…
待機していた
艦隊か!?
骸延様!
右舷より
艦隊接近!!


左からも現れました
いや前方からもです!!
後方は
後方はどうだ
竜
頂
ゴゴゴゴゴ

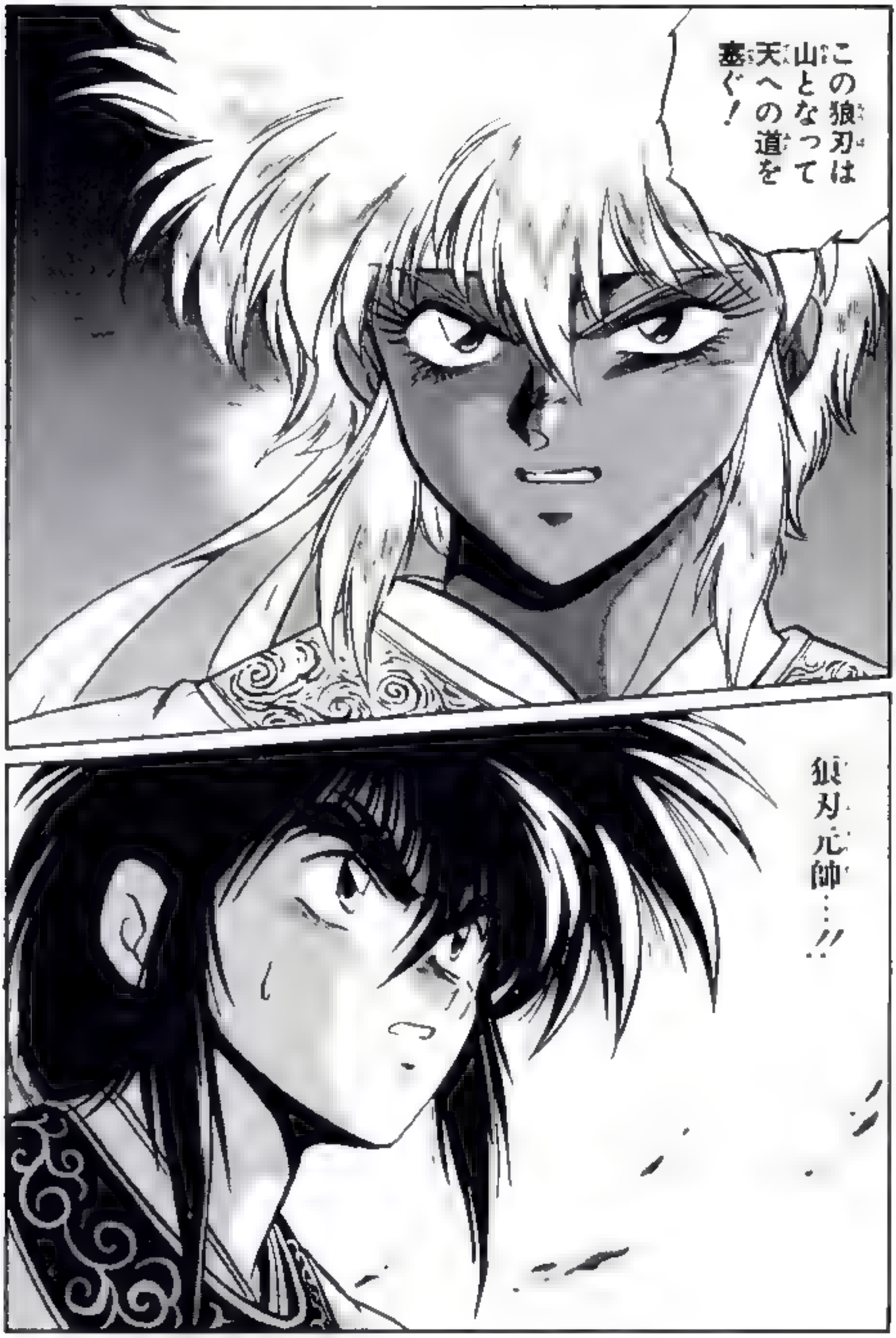
後方も遮断されました
完全に包囲されています!!
俺は五丈軍軍監骸延である!
いきなり取り囲むとは無礼であろう!
名を名乗れ!!
これは失礼いたした骸延殿!
それがし南京楼の一軍を預かる項焉と申す者!
先ほど無煙火の所属不明艦隊を発見!
これを撃破し残敵掃討任務についているよし

ここらは
南天との勢力が
入り組んだ
ところ！
斡延殿の御身に
何かあっては
一大事！
早々に引き上げ
られるが
よろしいかと
存じあげる!!
わかっておる
お役目
ご苦労…!!

雷
おう！
弾正様が
亡くなられて
五丈も大きく
変わった
亡き殿の
想いを他所に
天下は麻の如く
乱れよう……
戦乱は
まだまだ
やむことはない

ところで
こうやってあたしを
遠出に誘ったのは
何か話があるんじゃ
ないか？
元帥に
お聞きしたい
ことが
あります！
ほう
では
聞こう
元帥ほどの人が
五丈に巣くう
あいつらの
下風に立つなんて
俺には
わかんねえ！
なぜ
あの太常府
骸羅を
野放しにして
おくんだよ

あたしが骸羅と
入れ替わっても
主家を家臣が
乗っ取ることには
変わりないと
思わんか
じゃあ
あのまま骸羅を
好きなように
させておく
のかよ!!
あたしにも
考えあっての
ことだ
今は何も
聞くな
そうは
いかねえん
だよ!!
雷
あたしも
今おまえが
何を考えて
いるのかは
知らん
この戦乱を
どう生き抜こうか
何をしようと
しているかは
聞かぬ
だがもし
竜が天の時を得
一気に空に
駆け上がろうと
するのなら……


この狼刃は
山となって
天への道を
塞ぐ！
狼刃元帥……!!

カコ

しぶい…!!
自分で言うのもなんだが一心に書に打ち込む姿はなかなか絵になるな……
この角度!この角度からが一番知性が光る!
天才軍師大覚屋師真の真骨頂ってかっ!!
師真様よ
ほんと素敵だわ
あん師真様
ふふ…女官共の視線が痛い…

師真様ーっ!!
ふふ
来た来た
だれだい
私を
呼ぶのは?
あたし!!
あどーしたん
ですかあ
眠いなら
布団に
入んないと
カゼひくよ——
……
こらあっ
チビガキが——っ!!
てめえ
こんなところで
ウロウロしやがって
邪魔なんだよ!
あのね——
紫紋様が
お聞きしたいことが
あるんだって

何が雷が？
うん最近ちょっと様子が変なのそれで姫様ご心配なさってお城で何かあったのかなって
おいおい家庭内のもめごとを持ち込むなよ
新婚夫婦なんてそんなもんさ近くにいりゃ見えないものも見えてくるってな
あっちの方がうまくいってないんじゃね——の？
けど普段はいつもの雷様なのに……今日だって一睡もしてないのよ
ほうあいつがね……そーいや今朝もちょっと元気なかったかな？
ね——何か思い当たることある——？

ぷっ
んなことより
さっさと
子供をつくる
よ——に！
そーすりゃ
そんなことで
気をわずらわす
こともないって
うん
わかった！
ありがとう
師真様！
安心しなって
奥方様に
伝えな
だんなは
俺にまかせて
くれってな
ほんと——っ！
よかったー!!

やれやれ
恋敵の男の
ことを
こうまで
心配するとは……
俺って
大人だな——
雷？！
ん？

ほ――うあいつが昼間っから酒を？
こりゃ少し深刻かな
ポリ。
将軍を知らんか
奥庭の方に行かれるのを拝見しましたが
庭にね

だあああっ!!
うおおおっ!!

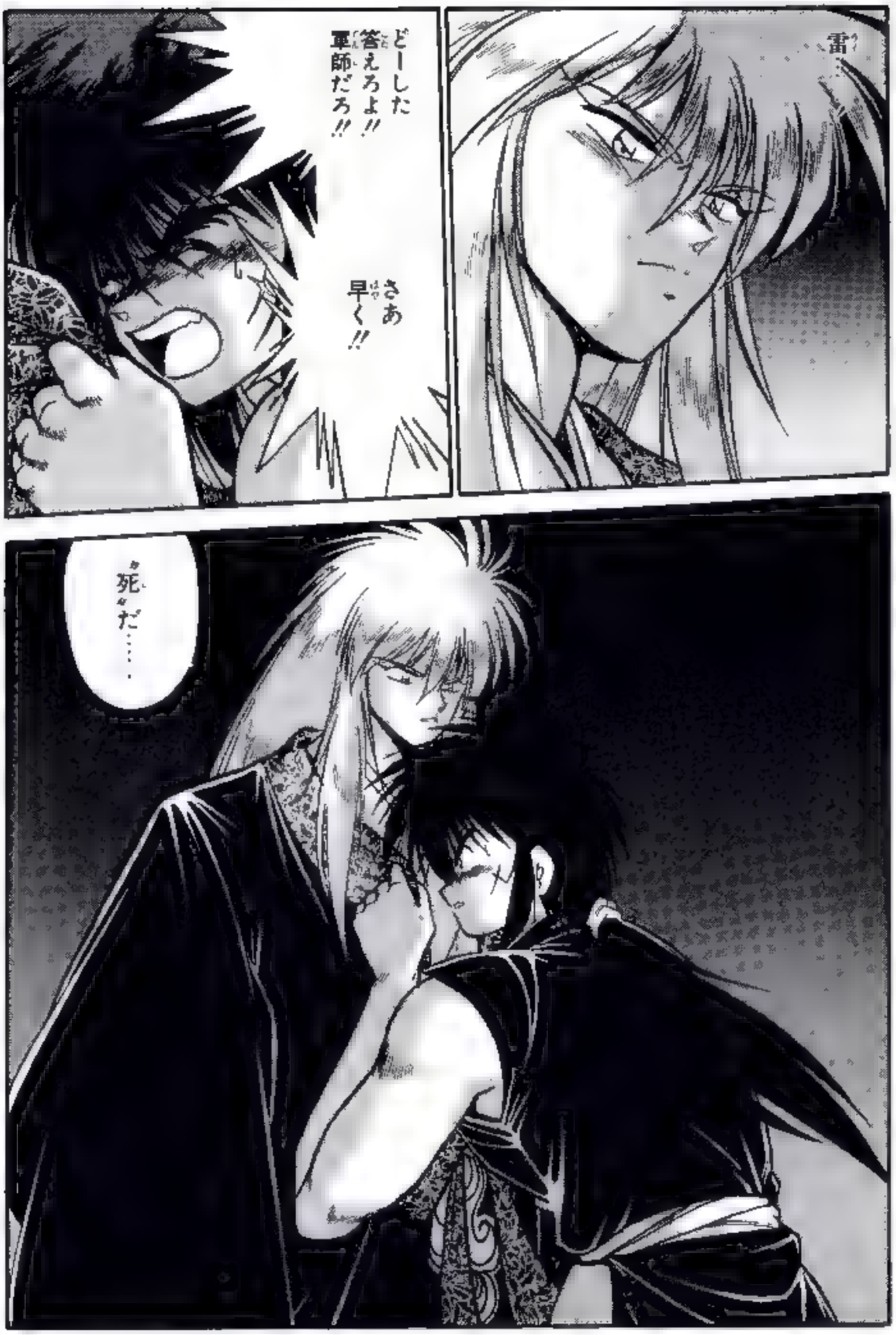
はあ
はあ
はあ
はあ
だがもし
命が人の時を得
無に空に
助けようと
するのなら
なぜだ？
この狼刃は
山となって
人への道を
塞ぐ
どーして
なんだ？

ちくしょう!
どーしてなんだ
答えてくれ――っ!!
!
よう
えらく
荒れてるな

なんだ
師真か
何か用か？
こんなとこで
何してる
へっ
見りゃ
わかるだろ
竹切ってるのさ
気分いいぜ
おまえもやるか
あっ！
ふん〃

師真！
てめえ
何しやがる!?
うるさい！
おまえ
ひまを
持て余して
いるのか!!
てめえの
最初の志は
どーした!?
何だと!?
そりゃ
どーいうことだ!?
俺は
今でも
天下を…!!
なら
竹を切っての
憂さ晴らしなど
するな！
人の上に立つ
人間ってのは
英雄たちを操り
賢者たちを手足の如く
働かせる者の
ことだ！
勤かん木を
相手にして
どーする!!

へっ！
俺に説教かよ!!
おまえに
俺の気持ちが
わかるかよ!!
法だの
理論だのが
頭ん中に
詰まってる
おまえによ!!
その自慢の
頭で
考えて
答えてみろよ!!
元帥は
狼刃元帥は
何で俺の前に
立ちはだかるんだ!!
俺は
元帥と
戦わなきゃ
ならねえのか!!


雷?
どーした
答えろよ!!
軍師だろ!!
さあ
早く!!
死だ……

■主君などが死んだあとを追って家来などが自殺すること。（＝追い腹を切ること）

あの四天王の中じゃ狼刃が一番まともだった
国を継いでもかまわないくらいだ
だが狼刃はあくまでも臣下で通したかった
だが彼女の想いを他所に五丈の国家体制は崩壊につぐ崩壊だ
自壊作用が進んで五丈の存在すら危うくなってきた
その時決心したんだろう狼刃元帥は
五丈の臣下として死のうとな!
どっちにしろ今の五丈はもうもたん
狼刃は弾正の五丈を守って死ぬことで追い腹を切るつもりなのさ
け・けどなんで俺と戦おうとするんだ!!
五丈をこんなにしたのは骸羅じゃねーか!!

ははは
骸羅？
あんなの小さいって
狼刃にとっても
奴は五丈の寄生虫
程度としか
思っちゃいねーよ
五丈という
旧体制を
粉々にしちまう
男は
ましてや
正宗でも羅候でも
ねえ
それが
竜我雷！
おまえだ!!
狼刃にとって
自分に名誉の死を
与えてくれるのは
おまえしか
いねえんだ！

ハ!!
元帥は……
元帥はこの俺を
一兵卒にすぎなかった
この俺を
ここまで引き上げて
くれたんだぞ!!
俺にとって
親同然
なんだ!!
狼刃は
そこまで見通して
おまえを
野に放ったんだ
我が子かわいさ
だけじゃない
俺は
狼刃元帥を
たおさなきゃ
ならねえのか
元帥は
俺の手にかかるのを
望んでるって
言うのかよ……!
そんな
バカな……!!

一つだけ
言っておくぞ！
狼刃と当たる時
決して
手をゆるめたり
躊躇したり
するな！
もし
手加減でも
したら
狼刃は一生
おまえを
恨むだろう！
教えた子に
手加減される
ほど
いやなものは
ない
全力で当たれ!!
いいな！
俺は
狼刃元帥と
一緒に
夢を見たかった
……

これが戦乱の世だ……

♪
あ
カリカリ
あーやっちゃった

ガバッ
こらあっ
またやったなー!!
:ったく
このノロマが!!
す すいません!!
すぐ片づけます
うん?
おまえ
また本を
読んでたな!!
あれほど
仕事中は
読むなって
言ったろうが!!
わ——っ
ごめんなさい!
ごめんなさい!

あ～～～～あ
また本を
取り上げられて
しまった…！
けど
悪いのは
俺だしなぁ
少しは
気合い入れて
仕事に
はげまにゃ
蘭々ちゃんにも
悪いし…
あれで
よかったのかな
お――い
ちょっと
そこの――
え？
あっ はいはい
お呼びで
しょうか
何だ
やけにひ弱
そうだが
まあいい
ちょっと
手伝ってくれんか
こいつを
書庫まで
運んでほしいんだ

ねえ——
聞いたあ？
何々？
ほら
書庫の主の
話さぁ
あ——
あたし
それ知ってる
本の山に埋もれてる
って奴でしょ
何でも
暗闇の中で
目が光ってさ
話しかけても
ウ——としか
言わないん
だって
やだー
変質者
じゃないのー
書庫の主
だってよ
主？
何だ
そりゃ

目がでかくて光るってよ
何でも全身固い毛で覆われてるって
鬼じゃねーの
角があるかどーか見てこいよ
食われた奴がいるそーだ
ぶるぶる近寄れませんな
何でそんなつまらんこと俺んとこに持って来るんだ!!
しかし我々では正体がつかめませんし……
この世界にあの様な生き物がいるかどうか博識の軍師様にお助け願おうと
けっくだらねえ

今天下の趨勢について語ってるんだぞ！つまんねえことで話の腰を折るな!!
へ――主ねおもしろそうじゃんよし俺が見てこよう
こら雷！
おまえはすぐそうやって逃げ出す！
いいかこれはおまえに必要な勉学なんだぞ!!
あ――悪かった悪かった
仕方ない俺が見てくる！
あ――汚ねー
ギロッ

こったく
雷が元気に
なったと
思えば
今度は
怪物騒ぎか
みんな
たるんどる！
あっ
師真様！
何だ
三楽斎
おまえも
来てたのか？

正体がわかりませんでしてな
とりあえず武装兵を20名ほど用意しましたが……
おおげさなんだよ!!
まったくどいつもこいつも
あっ!! 軍師殿!! 危険ですよ!!
お待ち下さいあなたの身に何かあったら……
バーーカ考えすぎだよ!
ん!
ブッ
ブッ

そこだ!!
わーーっ!!

ドカン
KAKAKA

大山鳴動して
鼠一匹とは
このことだな
この男の
どこが主なんだ
ええ三楽斎！
はあ
まことに
申しわけありません
うわさばかりが
先行してまして

このバカ者が！
仕事もせず
読書三昧とは
何事だ！
怠け者には
用はない！
クビだ!!
ご…ごめんなさ～～い!!
あ――
ちょっと
まて
三楽斎
さあこい！
つまみ出して
くれるわ!!
林則亭とか
いったな
おまえ
ここ一月の間
ずっとあの書庫で
本を読んで
いたのか？
はあ
ふん！
おぬしが本を
読んでどーする
仕事もせんで!!
本を読むのは
楽しいか？

はい
そりゃもちろん!!
この一月
すごく
幸せでした!!
本を読むってのは
活字を
ながめてることじゃ
ない
どれだけ自分の
物にするかだ
どうだ
兵法七書のうち
どれか諳んじれるか?
いや——
とんでもない
そんなの無理ですよ
俺 頭悪いし
なら
史書は
どうだよ
一つぐらい
あるだろ
史書なんて…
あんなお厚い本
一字一句を
諳んじるなんて
とても…
ケッ
自分はただ
おもしろくって
読んだだけですんで…
軍師殿
もうよろしいか
このような小人に
何を聞いても
むだですぞ
叩き出して
まいります!

おいおい
そう
あわてるなって
叩き出すのは
いつでも
できるだろ
ついてこい
え？
軍師殿!!
ど…どーも
失礼します
……
やれやれ
あの男のどこが
気にいったの
やら
軍師も変わった
お方だから
変人同士 気が
合うのかも
あ…あの
あの
俺か？
俺は大覚屋
師真！
ここの大将の
軍師ってのを
やってるんだ

だ…大覚屋師真って
いうと あの
才識兼備で
その博識は
上は天文
下は地理までと
いわれた大天才の…!?
わはは は
世間では
そうもいわれたなー
もっといえ
もっといえ
けど
女色に
おぼれて
品行はなはだ
悪しと…
ラブ〜っ!!
だ——っ
んなことは
いわんでいい!!
その師真様が
わ…
わたしなんかに
何の用が…
いや
ちょ——っと
見てもらいたい
物があってな
それからな
は
さっきいった
兵法七書や
史書なんか
俺も
諳んじるなんて
できん
だから
気にすることねえぜ

兵法書の
丸暗記など
三文儒者が
やることだ
文字いじりなんか
何の役にも
立たねーよ
んなヒマあったら
女抱いてら
はー
そーいうもん
ですか
古来 大人物が
経典にかじりついた
話なんか
聞かんだろ？
要は その得た
知識を 自分の
血や肉にして
いくことだ
現実のものにな
うひゃー——
やっぱり
すごいな
大天才って
いわれる人は
違うなあ…
ここが俺の
執務室だ
見てもらいたい
物もここにある
あ…
お…おじゃま
します

こいつだ
これは？
俺が明日にでも
雷将軍に示す
天下取りへの方策を
書き連ねたものだ
て…
天下取り～!?

陣容から
将の配置
占領地政策
会戦に
適した地も
示してある
いわば
これからの
俺達の
運命がすべて
これに
書かれていると
いっても
過言じゃない
まだ
だれにも
見せてはいない
おまえが初めてだ
こいつを
どう見る？
どう見ると
いわれても
わたしには
すぎた
ものですよ
けど 一見
してみるだけで
理路整然とした
文章ですね
さすがだなー
…なんて
いうか
手に取る様に
わかるってのは
こーいう
ことですね
おまえに
こいつの代案を
作ってもらいたい

え？
い…今なんと…？
これに代わる天下取りの方法を考えろっていったんだ
そ…そんなことわたしなんかにはできませんっ!!
だって天下のことも軍のこともわかんないんですよ!!
無理です！できませんっ!!
そんなむずかしいことじゃないだろ
自分ならどーする？ってのを考えりゃいいんだ大局を示しゃいい
自分の頭ん中で描いたものを書き連ねりゃいいんだよ

ほ…ほんとに無理ですよかんにんしてください
い――やるんだ！
ただし一切は守ってくれよ明日には将軍に見せなきゃならんからな
今晩一晩でやってくれ!!
一晩で!?
で…で できません!! わ わたしにはとてもとても…!!
なーにおまえさんが今まで水を吸う真綿のようにに貯めこんだものをちょこっと出しゃいいんだよ
読む楽しみを知ってりゃそいつを肥にする楽しみもわかってるさ

えらいことになった
林則徐殿
必要な書物資料があれば何でも申してくだされお手間はおかけしませんが
お食事も用意しておりますのでいつでもお申しつけください
はあ
ホケ～
……

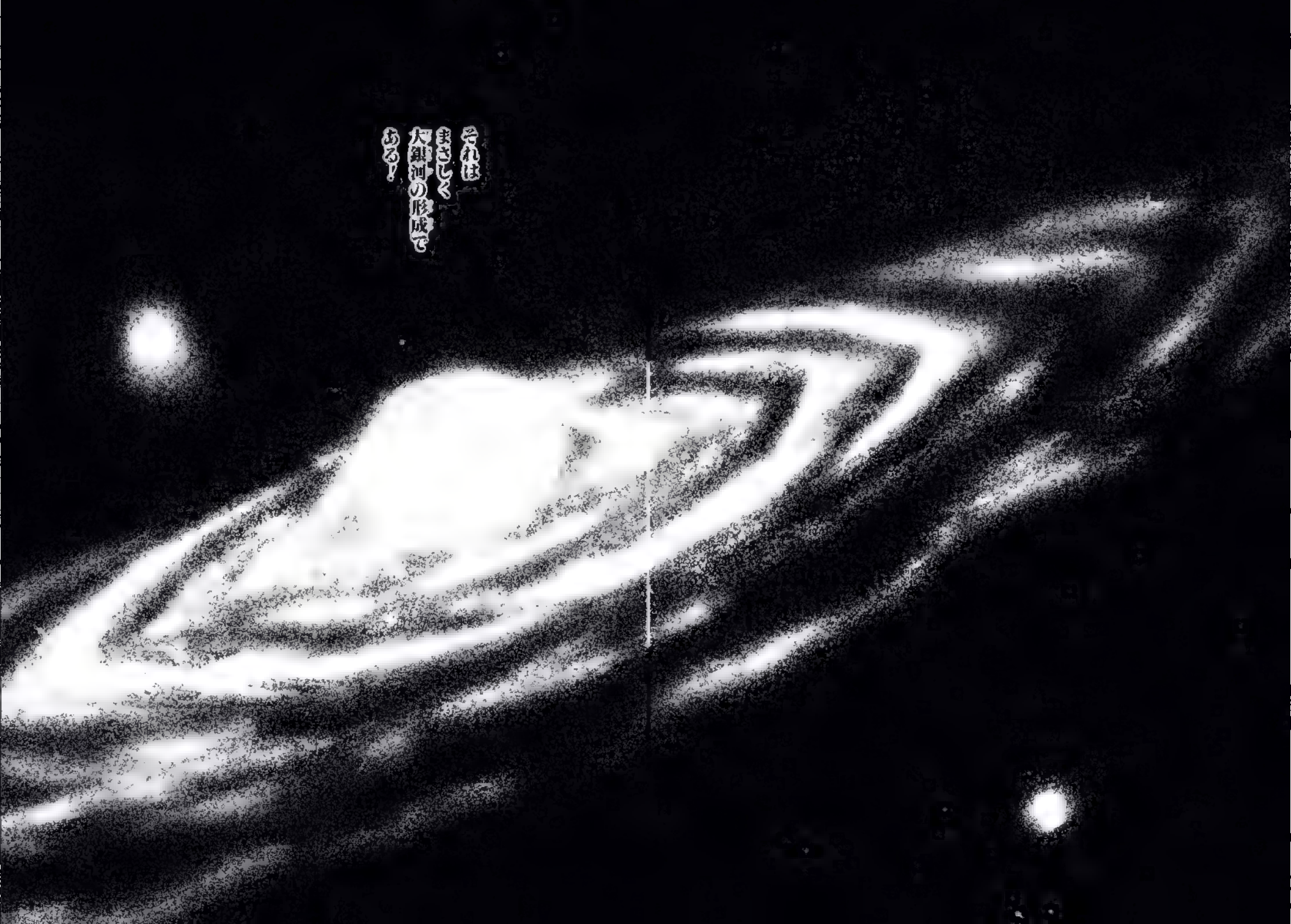
失礼しまーす
ほーーーい
お仕事がんばってるお夜食持ってきたよ
あら
なにしてんのよ――!!お仕事してんじゃないのーーっ!!
あ蘭々ちゃんか
いーやこれが仕事なんだよ

寝るのが仕事～～？
寝てんじゃなくて考えてるの…
天下統一の青写真をなんて師匠様はいうけど…
俺なんかじゃとても…
だって宇宙は広いんだよ
だったらなおさら寝てちゃだめじゃない！
ほら早く起きて！
ただ広いだけに何でもできる気がするなぁ。
ああしたい…こうもできる…
目をつぶってるとそいつが見えてくるんだな——
白昼夢ってのかな…

じゃあ
それ言ってよ
あたし
書いたげる
え？
いいよ
いいよ
人に見せる
ものじゃ
ないんだから〃
いいから！
てなきゃ
いつまでたっても
できないじゃない！
うわっ
俺より
字うまい〃
薫々ちゃん
すごいなぁ
へへーっ
道師様の
とこで
習ったもん
ね——
さあ
早く
いってってば
しょうがないな
じゃあ
一つ
ほんとに
しょうがないもんな——
とにかく
好きな様に
やらしてもらおうっと
もし変なものに
なったら
即二番で
逃げりゃ
いいさ
すみません
道師様

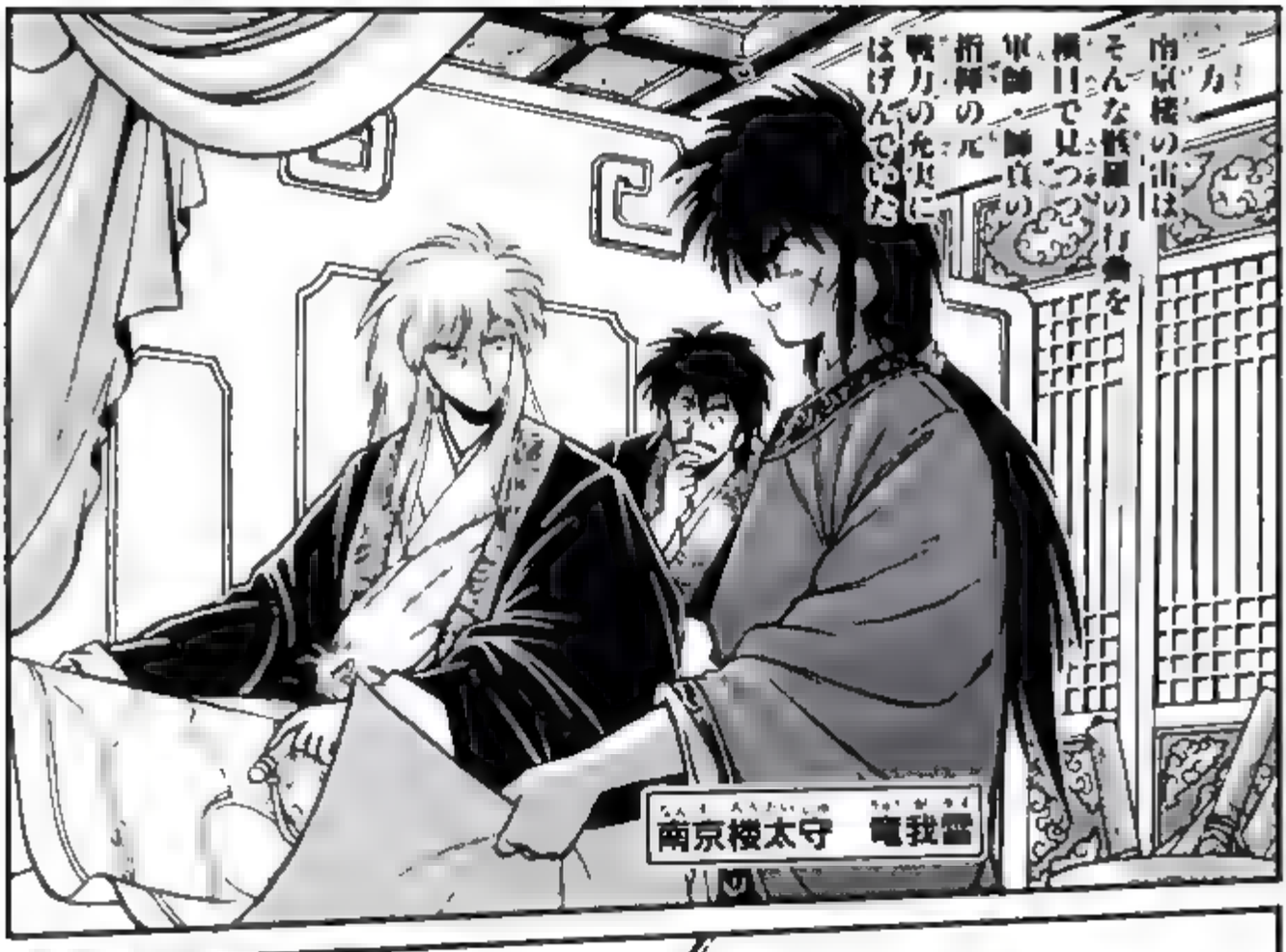
この風采のあがらない男…
林冲嵩が雷の陣営でその真価を発揮するのはもうまもなくのことであった…
スカー…

一つの大きな星の許に
無数の星が
寄り集まる
今や宙という
一星の許に
集まる星々の
光は
人を圧するかに
見える


それは
まさしく
大銀河の形成で
ある！

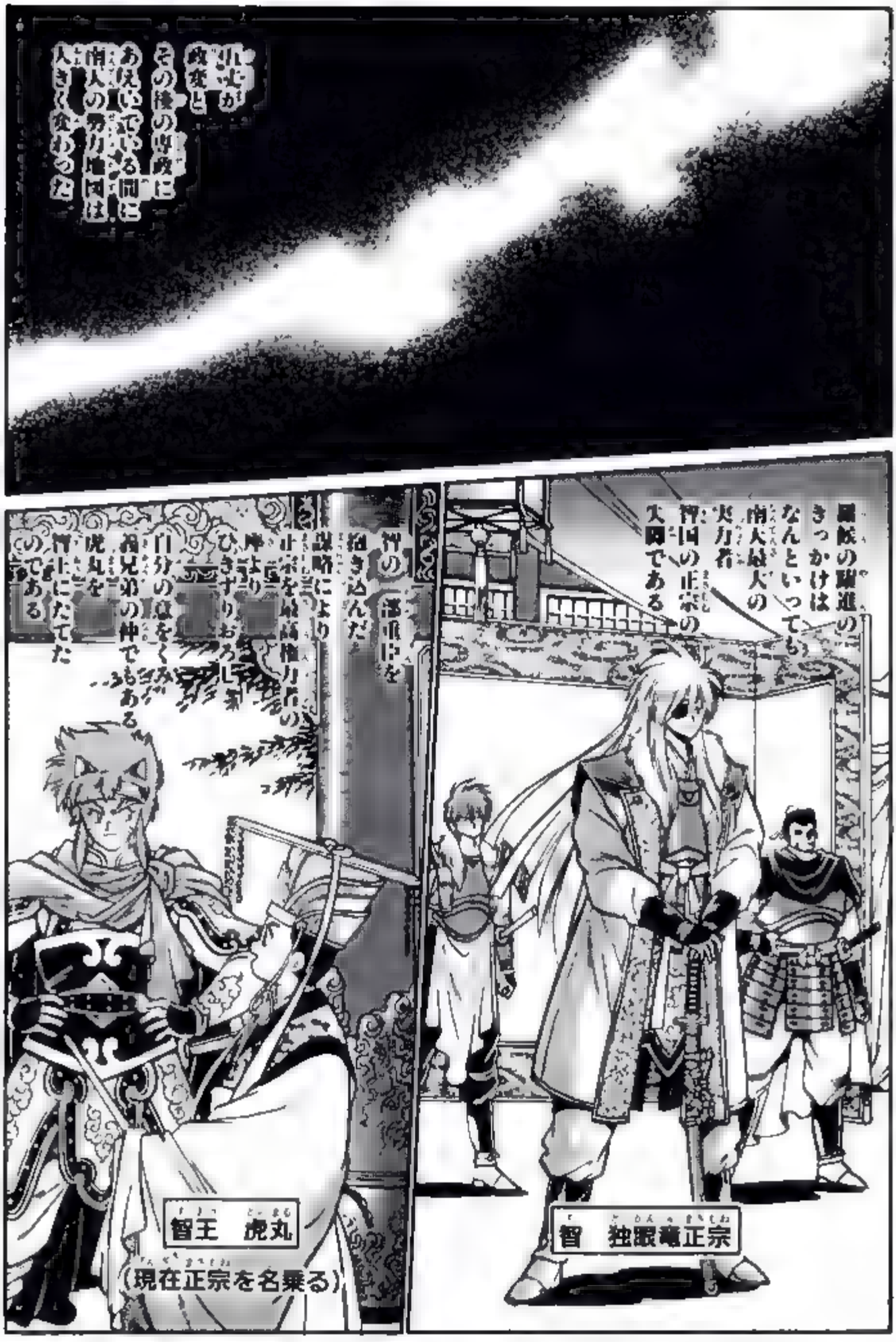
何も明け
崩壊の速度をあげる
五丈国
しかし
国の衰退とは裏腹に
独裁者骸羅の圧政は
さらに猛々しさを
増すばかりで
あった
太常府　骸羅

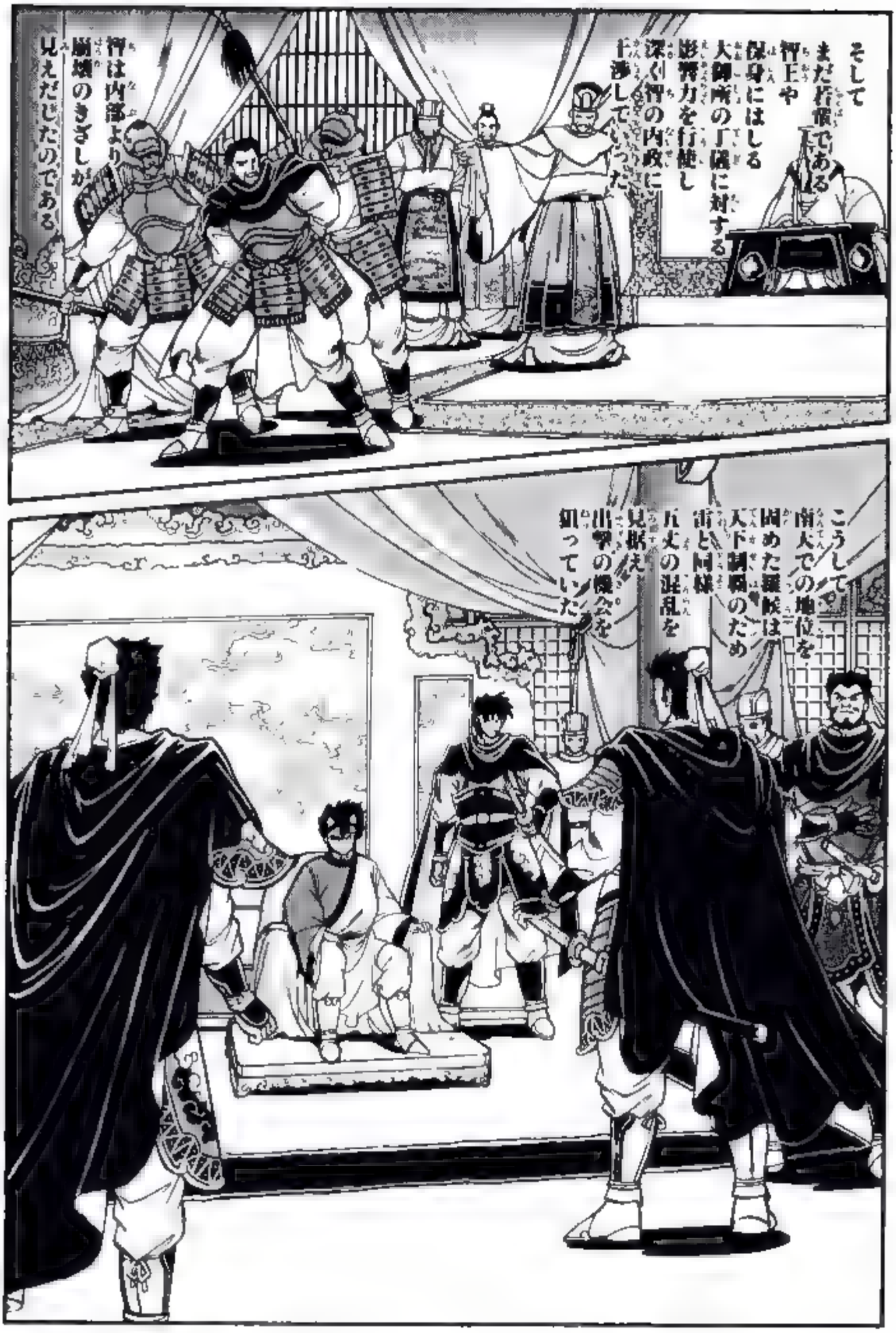
正宗の失脚後
もはや
御所に敵なしと考えた
護良は
いよいよ
帝位に即く野望を
大きくしていった
老臣たちを脅し
名目上の手順を踏み
天下に自分の威勢を
ボすために
弁上部の新嘗祭を
急がせた
その完成の暁には
天下に向かって
天子の御位に
即いたことを
宣言する
儀であった


南京楼太守　竜我雷
南京楼の主は
そんな甘寧の行為を
横目で見つつ
軍師・鳳真の
指揮の元
戦力の充実に
はげんでいた

甘寧の即位こそ
反中央の挙兵の
絶好の時期と
考えているからである

だからもう一人
五丈の凶星を
魔所に
咆哮吠々と
大下を伺い
牙を磨ぐ男がいた
若き南天の雄
練王羅候である
練王 羅候


北畠が
政変と
その後の専政に
あえいでいる間に
南人の勢力地図は
大きく変わった
騒候の躍進の
きっかけは
なんといっても
南天最大の
実力者
智国の正宗の
失脚である
智の一部重臣を
抱き込んだ
謀略により
正宗を最高権力者の
座より
ひきずりおろし
自分の意をくみ
義兄弟の仲でもある
虎丸を
智王にたてた
のである
智王 虎丸
(現在正宗を名乗る)
智 独眼竜正宗


そして
まだ若僧である
智王や
保身にはしる
大御所の了儀に対する
影響力を行使し
深く智の内政に
干渉していった
智は内部より
崩壊のきざしが
見えだしたのである
こうして
南大での地位を
固めた羅候は
天下制覇のため
雷と同様
五丈の混乱を
見据え
出撃の機会を
狙っていた

スリッ!!
また餃子か邑峻……
うん♡七色餃子のてんこ盛りよ
どれもこれも中に入ってる具が違うの
カニからフカヒレまでいっぱいあるんだから♡
他の料理は作れないのかよ!
餃子ならまだあと百種類ぐらいできるよ
バカヤロー!こう朝昼晩毎日毎日餃子ばかり食えるか!何か他のもの食わせろーっ!!
むっ!!

食べて
くれないの
…
えっ
いや……
あたいへの
愛はもう
さめて
しまったのね
バカ
たかが
料理ぐらいで……
何言ってんだよ!!
そ——よ
ど——せあたいは
餃子しか
作れないわよ!!
そんなに他のが
食べたかったなら
他所の女にでも
作ってもらえば
いいじゃん!!
うわっ
ちょ…ちょっと
落ち着けって!!
実家で
花嫁修行
やり直して
きます!
わ…わかった
わかった
あやまる!
食べるって!!
じゃあ
こうしよう
姜子昌たちも
呼んで
みんなで
楽しく食べよう
じゃないか
あら
でも将軍たちには
もうお振分け
しちゃったわよ

え――っ
また餃子
なんですか
――っ!?
そういうな
跡取
奥方様の
手料理を
いただけるんだ
これは光栄なこと
なんだぞ
最近もう
他の料理が
どんなだったか
思い出せなく
なってるんですよ～
城内に
ニンニクの
臭いが
いつも漂って
ますし～～～
いいじゃないか
俺は夢にまで
見るように
なったんだぞ
あ――ん♡
お～～～ん……
ごちそう
さま……
わ――い
明日もがんばる
からねー♡

申し上げます
う……何だ？
はっ 南蛮王国 夏候猷殿より 急使が参りまして これを殿に 至急お取り次ぎ 願いたいと……
夏候猷と いえば 南蛮の重鎮と 言われる老将 じゃないのか
うん そーだよ うるさい じいさんなの
ガサッ
この使者は 今着いたのか？
はっ！
確かだな！
は……はい 間違い ございません
ねえ どーしたのさ 何か あったの？

南蛮王が……
義父上が
お倒れになられた
ええっ!!
父上が……
父上が
あぶないの!?
支度しろ!
南蛮王国に
行くぞ!
姜子昌と
踏庖を
呼べ!
はは っ
ただちに
羅候!!
間に合って
くれれば
いいが……!

殿
くれぐれも
ご油断なさらぬ
よう……
使者の件に
ついても
確かに
ふにおちない
ところがあります
わかってる
だが
行かぬわけにも
いくまい
締庖！
手配は？
はっ
竟興将軍に
五万の兵を持たせ
秘かに国境に
移動させました
つまらんことに
邑峻を
巻き込みたくは
ないが……

父上……
だが
暗殺が
南盆王様に
着いた頃には
南盆王は重態に
陥っていた

よく来て下さった羅候殿
おぬしに会えずには死んでも死にきれぬでな……
何をおっしゃいますか大王様はまだまだ若うございますこれからでございます

いや
自分の体じゃ
わしには
ようわかる
……
父上
しっかり…!!
おお呂蒙……
お前は良き婿殿に
めぐまれたのう……
羅候殿は
一代の英傑じゃ
心して尽くすが
よい……
父上……
羅候殿……
おぬしの
器量を
見込んで
頼みがある……
はっ
なんなりと
お申しつけ
下さい
この世はまだ
激動の渦の中じゃ……
この南蛮王国とて
いつとこの国の
版図に組み込まれる
やもしれん……

わしら
蛮人はいつも
そのような目に
あっておった
それゆえに
この国の
将来や
民のことが
心配でならぬ
ご安心を
この羅候
ある限り
境界の地を
守り通して
みせます
いや……
おぬしは
もっと大きく
なれる男じゃ
のう羅候殿
わしの頼みは
そちに南蛮の
王位を継いで
もらいたいのしゃ
えっ〃
そうして
南蛮と漢の
二国を合わせ
その力で天下に
乗り出して
ほしい
しかし 義父上
それは
お受けできません

なぜじゃ
余を安心して
死出の旅に
出させてくれい
この南蛮王国には
立派な跡継ぎが
いらっしゃいます
それを
差し置いて
他国の者か
どうして王位を
継げましょう
お考え直し
下され
世が平和なら
このような
ことは
言わぬ
だが今は
乱世……
血族を重んじる
だけでは
渡ってゆけぬ
息子たちよ
はっ
余は羅候殿に
国を譲ることに
した
羅候殿は
天下の覇者に
なられるお方じゃ
身を正し
父と思うて
お仕えするのじゃ
はい
ならば
羅候殿に
臣下の礼を
とるがよい

羅候様
末長く
ご指導
願います
重臣一同とも
よく相談した
結果じゃ
受けて
下さるのう
羅候様
お願いいたします
我ら家臣一同
忠節をもって
お仕えいたします
わかりました
未熟者ですが
お引き受け
いたします！

ありがたい
これで余も
心置きなく
旅立てる……
国王の印綬じゃ
民を安んじて
天下に覇を
となえて下され
ははっ!!
ご期待に
そえるよう
全身全霊を
もって
邁進いたします
ご安心
下され!
さあ陛下
長話は
体に毒で
ございます
少しお休み
下され
うむ……

この度は
遠路はるばると
ご苦労なことで
ございました
おう
夏候獣将軍
手厚いもてなし
感謝しているぞ
して
そちらの
若武者は？
申しおくれ
ました
それがしの愚息
夏候牙に
夏候才で
ございます
夏候牙です
弟の
夏候才です
いい面構えだな
さすが
勇将夏候獣殿の
ご子息だ

いやしかし
危ぶみましたぞ
陛下が明日をもしれぬ
ご様子なのに
一向に羅候様は
お見えにならない……
ご遺言に
間に合わ
ないかと
思いました
使者に
渡された
この手紙
だが……
これは
将軍が？
間違い
ございません
それがしの花押で
ござる
して
これが
何か？
どうやら
この城内には
俺を南蛮王に
面会させたくない
人物がいるようですな
な…何と…!!
どーいうことですか!!
この手紙は
十日も遅れて
俺の元に届いている
十日も
…!!
おそらく
使者を買収
するかして
出立を
遅らせた
のでしょう
我々に
好意を
持っていない
輩の
仕業です
むむむ
一体だれが
…!!
わかり申した
さっそく使者を
問い詰め
その
不逞の輩を
引きずり出します!

牙！　才！
お前たちは
配下から精兵を
選び　羅候様を
お守りするのだ！
はっ
ただちに！
キィ…
な…何
それは
まことか…!!
うそ偽りは
なかろうな!!

ま…まことでございますお二人にか…金をもらいまして……
お……お許しを……!!
うぬぬぬ
何たる……何たることだよりによって……
!!

南蛮じゃ
夜中に人を
起こすには
刃物が
いるのかよ
何!?
あいにく
だったな
覚悟しな!!
急げ!
羅候様が
危ない!!
急げーっ!!
カッ
カッ
カッ
カッ
ブォン

姜子昌殿〃
羅候様は〃
おう
ご安心を
老将軍
牙！
才！
父上…〃

お前たち……
お前たち
何ということを
しでかして
くれたのだ！
羅候様の…！
新王となられる
お方のお命を
狙うとは…!!
恥を知れ!!
父上！
我々はこの国の
ため
よかれと信じて
やったまでの
こと
そうです
王家と何の
ゆかりもない
この男を
王位に即けるなど
笑止千万!!
死ねいっ
羅候!!
あやつら
反乱兵じゃ！
反乱兵を
討て――っ!!

ごめん!!
何をなさる
姜子昌殿!
死なせて
下され!!
もう
わしは
わしは……
死ぬ必要が
どこにあります
将軍!

逃げたぞ
――っ!!
門を閉じろ
――っ!!
彼らも
この国の将来のことを
憂えて
やったまでのこと
私心は微塵も
ございません
その通りだ
老将軍!
うう……
あいつら
二人を咎めたりは
しねえよ
もちろん
義父上にも
ふせておく
早まった
真似は
してくれるな
ははっ!!

申しわけございません 将軍のご子息は二人とも逃亡いたしました！
上空に艦隊がいますおそらく仲間でしょう
逃がすでない宇宙の彼方までも追って必ず引っ捕えるのだ！
いえ老将軍のお手をわずらわせることはございませんほどなく網にかかりましょう
何と手配済みと申すか
宛興将軍に拿捕するよう連絡してあります
じゃあ俺たちも行くか！
老将軍もご同行下さい二人を説得せねばなりません
恐れ入ります……

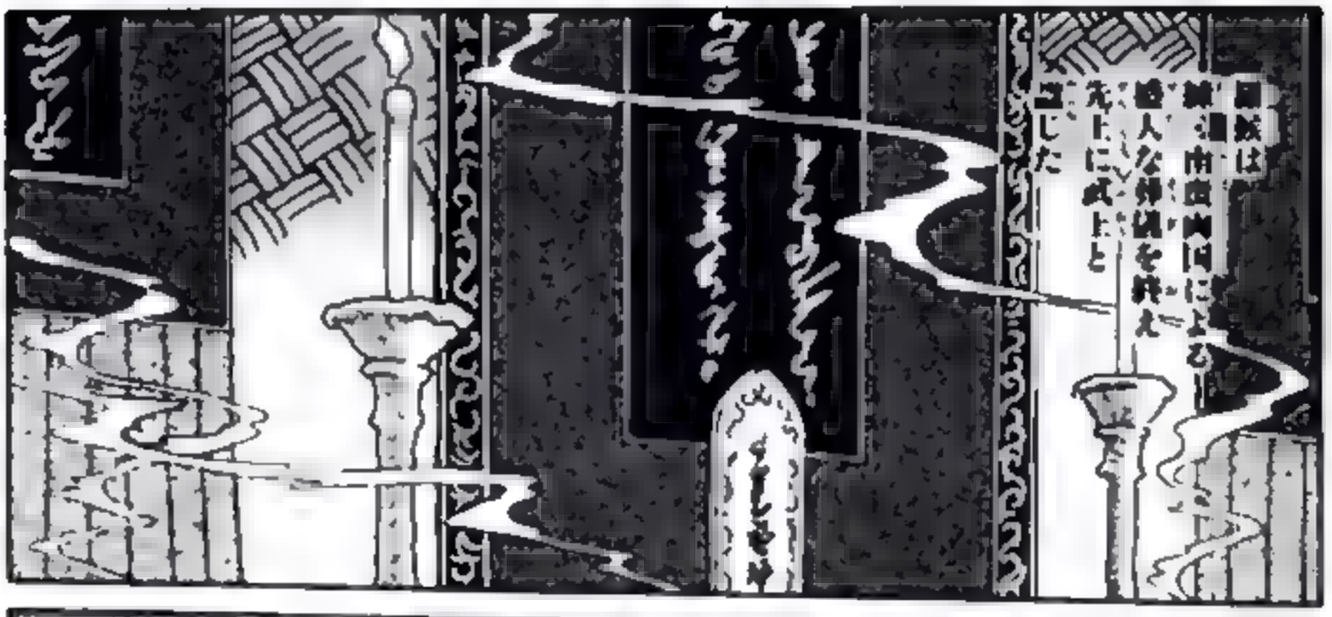
もはや
完全に包囲
されている
これまでの
ようだな
オレよ
兄上……
俺は決して
間違ってはない
つもりだ
悔いたりは
しない
ただ
残念なのは
年老いた
父上に
つらい思いを
させてしまった
ことだ
……

いいか才！
俺は死んで我を通す
だがお前は生きて名を残せ！
えっ！
兄上が死ぬ時は私も一緒です
どうかお供させて下さい
ならん！
おまえは知勇に秀でておるお互い 国のためにふさわしい道を選ぶのだ
俺が全責任をとるお前は国と父上に尽くしてくれ頼むぞ
さらばだ
兄上……

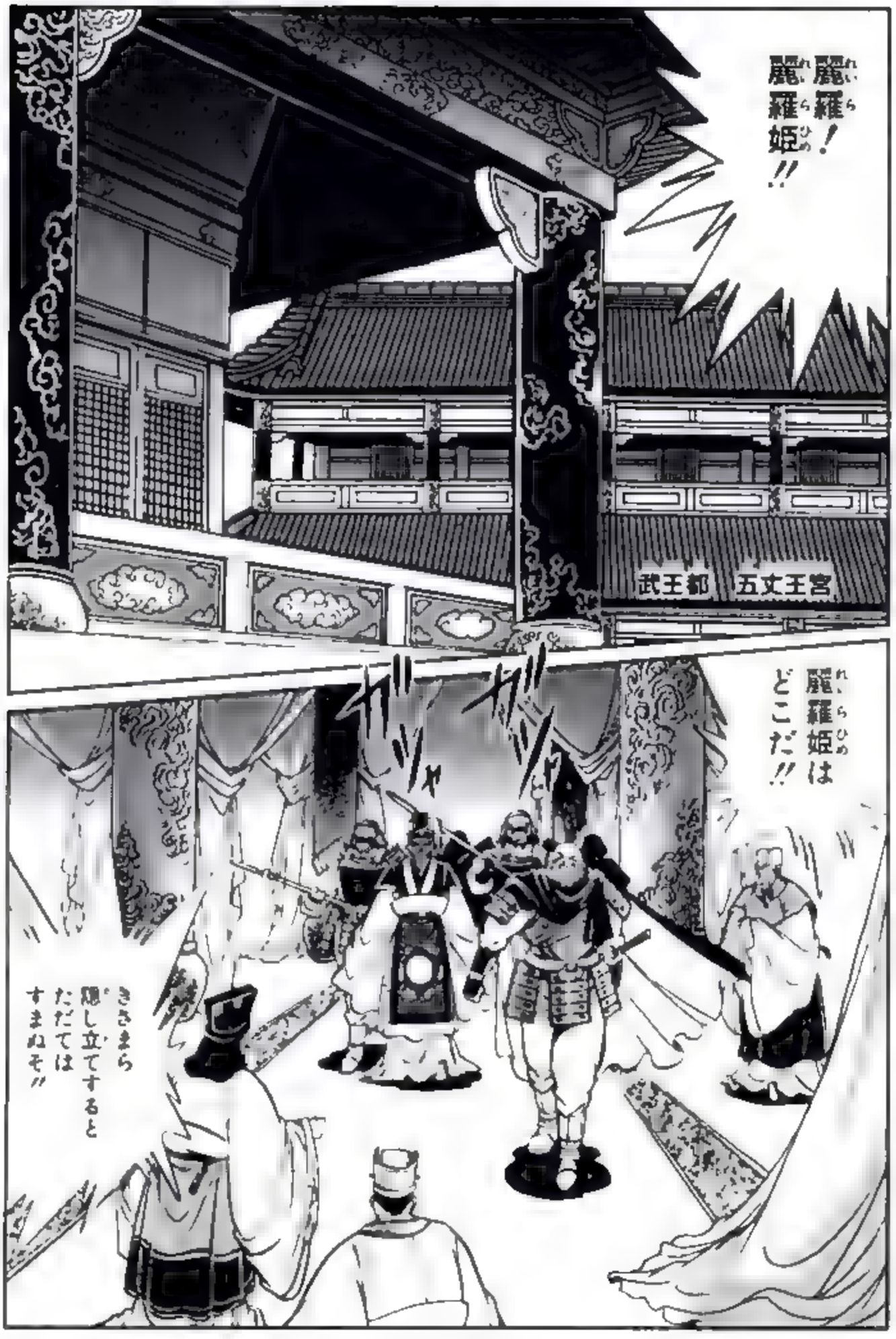
ゴォォォ
ゴォォォ
よく来てくれたな夏候才
兄夏候牙は気の毒なことをしたな
はい……
お前たち兄弟の罪は問わん
だれだって国を思う気持ちにはいろいろとあるものだ
は……
俺を王として頼むに足りない男だと思っての行動だろ？
夏候才あともうしばらく待ってくれねえか？

え……
待つとは…？
そうだ
それでもこの種候に
天下を治める器量が
ないと思ったら
俺の首を狙え
そんな首なら
俺だって
いらねえからな
……
はは——っ
恐れ入り
ました!!
よく
父親にも
詫びておけな
父上
申しわけ
ございま
せん!!
このバカ者が!!

それから
まもなく


皇族は
統一南蛮両国による
絶大な権威を持え
先王に武上と
ゴじた

こうして
統一・南蛮
二つの王位を継ね
いよいよ
天下制覇に
乗り出すことに
なる、


麗羅！
麗羅姫!!
武王都
五丈王宮
麗羅姫は
どこだ!!
きさまら
隠し立てすると
ただてはすまぬぞ!!

な…
何事で
ございますか
おう
麗羅姫を
ここへ
連れてこい！
聞きたい
ことが
ある!!
な…なんと
無礼な!!
仮にも主家の
姫君で
あらせられるぞ!!
臣下としての
道も礼も
わきまえぬか！
下がりなされ!!
連れてくれば
よし
どうあっても
連れてこぬと
言うのなら……
ふん!!

かまわん
皆殺しにしろ!!
我々に
従がわぬ者は
みんな斬れ!!
なんや
この騒ぎは!?

姫様!!
お逃げ下さい!
賊が迫って
います!!
早く!!
あうっ!!
瑞鶴!
翔鶴!!
!!
こんなところに
いたのか
牝狐め!

鞍山！
銭延！
何のつもりや
これは!!
うちに
歯向かうとは
ええ度胸やないか!!
だーっ!!
バカ者が!!
きゃん!!

さて
鳳凰姫
お答え願おうか
その昔 弾正公が
斉王都を
陥した時に
手に入れた
伝国の玉璽の
ありかを!
玉璽!?
知らん…!!
う…うちは
知らん!
そんなもん
知らへんでぇ!
やれやれ
弾正も
甘やかしたもんだ
この期に及んで
こうも
聞き分けが
ねえとはな!!
しらばっ
くれるんじゃ
ねえ!!
てめえが
持ってるのは
わかってるんだ!!
それとも
この顔
握り潰され
てえか!!
うう……!!

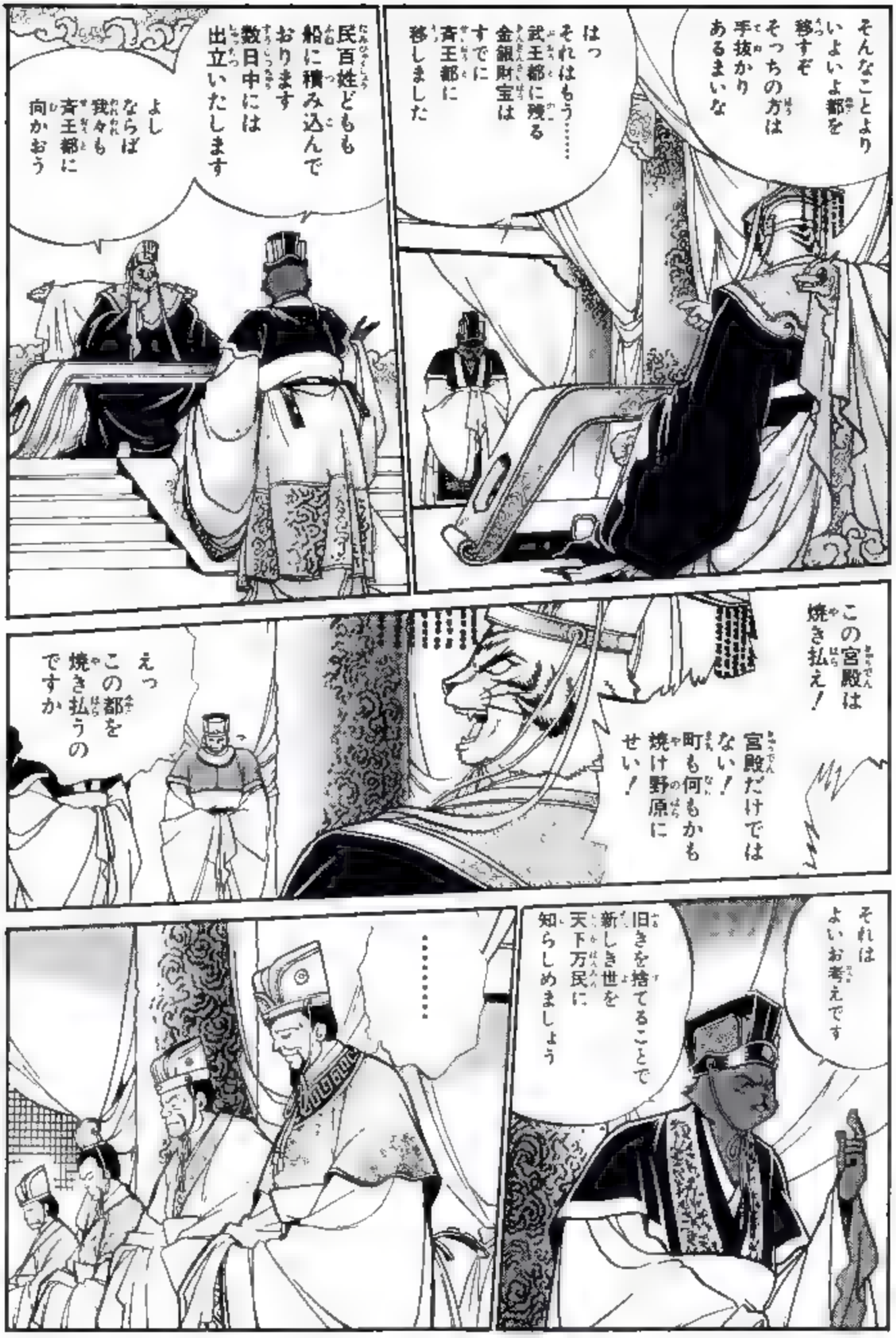
●天子の印

おらっ
さっさと
言っちまいな
どうせ
お前には
用のねえもの
なんだからよ！
アホ言え…！
伝国の玉璽っ
ちゅうんは
それに相応しい
男がもつもんや
だれがお前ら
下郎なんぞに…
出直してきいや…!!
な…何いっ!!
そんなに
死にたいか!!
ぐわっ!!
誰だ!?

そこら辺でよしときな…！
でねえとこのナマグサ御仏に代わって天罰を降すぜ！
ぬ…ぬう！
やれ！この坊主を斬れ!!
南無……
あああ!!

おおっ!!
姫の身柄はわしが預かるぞ
ま…待ていっ!!
きゃっ!!

追え！
逃がすな!!
何としてでも
鳳福姫を
取り返すのだ!!
おのれ……
ナマグサ坊主が
切り刻んでやる
!!
あやつ
どこかで
見たことが
はっ…
もしや
あの竜我の…!!
何
玉璽は
手に入らな
かった？
はっ
申しわけ
ありません
ふん！
かまうな
そんなもの
造ればすむ
ことではないか


そんなことよりいよいよ都を移すぞそっちの方は手抜かりあるまいな
はっそれはもう……武王都に残る金銀財宝はすでに斉王都に移しました
民百姓どもも船に積み込んでおります数日中には出立いたします
よしならば我々も斉王都に向かおう
この宮殿は焼き払え！
宮殿だけではない！町も何もかも焼け野原にせい！
えっこの都を焼き払うのですか
それはよいお考えです
旧きを捨てることで新しき世を天下万民に知らしめましょう
……

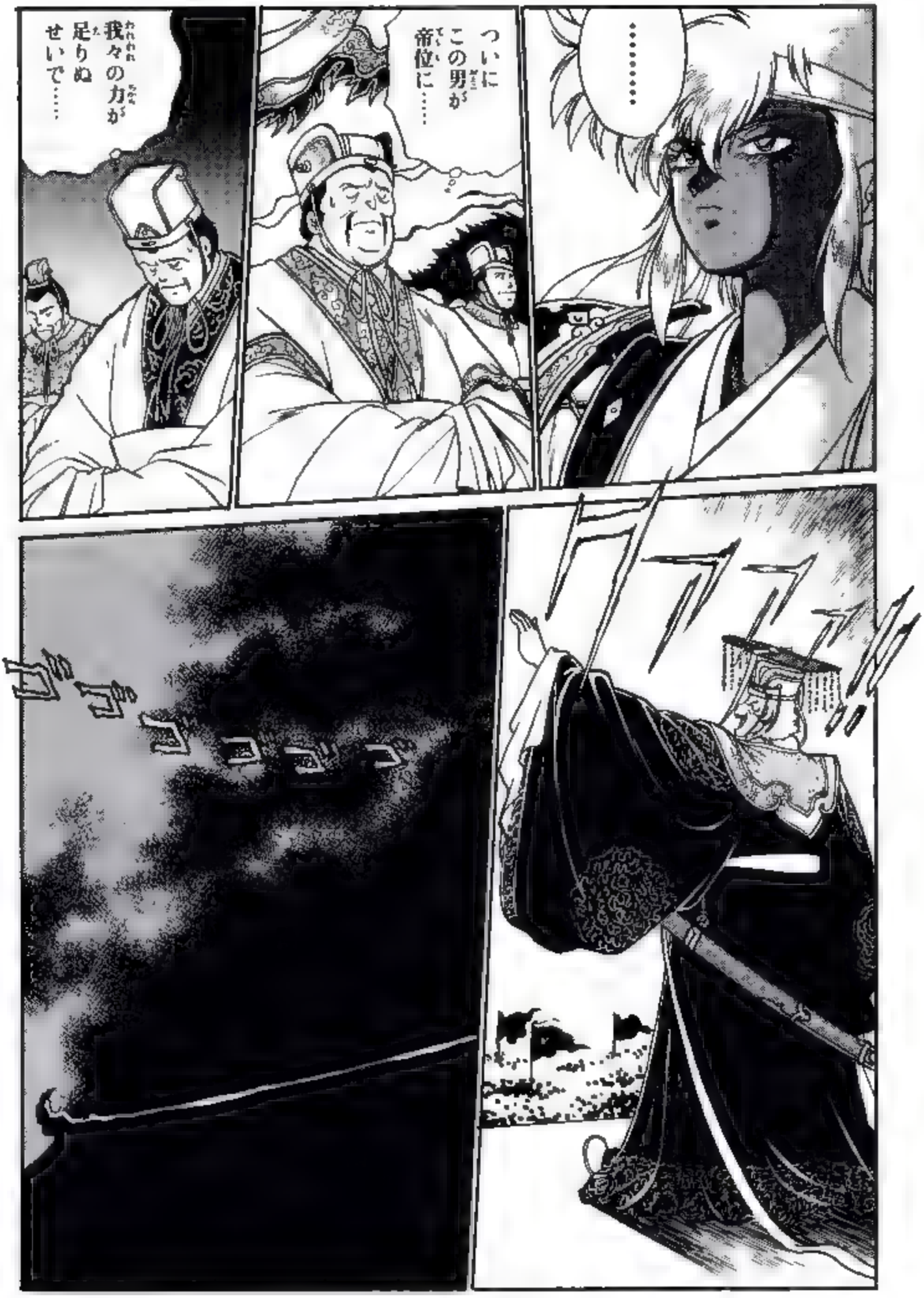
こうして
比紀弾正が
一代で築き上げた
武士郡は
炎に包まれた

五丈新都 斉王都 大武安宮

親王以下
文武百官の
見守る中
武則天は
伝国の玉璽を
受け
ここに
大周朝の皇帝と
なったことを
天下に宣し
聖人大帝と
称した

皆の者
今日より
わしが
この大銀河の
皇帝である！
これより
国名を
大五丈と号し……
年号も
宣魏と
改める！

さあ諸将よ
万民よ！
このめでたい日を
祝って
万歳を唱えよ
大帝
万歳――っ〃
大帝
万歳――っ〃


……
ついにこの男が帝位に……
我々の力が足りぬせいで……
ゴゴゴゴゴゴ

ひぇぇぇっ"
きゃーっ"
うわっ"
ドカ

ゴゴゴゴゴ
天が……
弾正様が
お怒りじゃ！
あわわわ
お許しを〜〜〜
撃

わはは は
天よ
わめけ！
泣き叫ぶが
よい！
お前が
どうあがこうと
この世は
わしのものだ！
やがて
天をも
わしが支配
してやる！
わしは
大銀河の皇帝
なのだ!!

こうして
鉄輪は
第一に即位した
それは
新たなる
大動乱の
序曲であった
ゴゴゴゴゴゴ……

骸羅即位の
情報は
またたく間に
全領河に
知れ渡った
なにいっ！
骸羅が
帝位に!?
はっ
聖天大帝と
名乗り
国名を大五丈と
したそうに
ござりまする
あの
野郎……
ついにやり
やがったな
…で
奴はその後
どーした!?
練の羅候や
智王を
王に封じ
上各するよう
使者を出した
そうです

けっ！
偽帝のくせに
やることだけは
やりやがる！
師真！
やるぜ!!
いいだろう！
"時"がきた!!
よ――し！
みんなを
集めろ!!
ははっ！

今日
集まって
もらったのは
他でもない
いよいよ
偽帝討伐の
軍を起こす
ことになった
おおっ！
これ以上
あの骸羅を
のさばらせて
おく気はない！
奴を倒し
五丈をも
平らげる！

いよいよ
天下取りへの
第一歩ですな！
ちくしょう
腕がなるぜ！
いつ出陣
なんだ!!
まあ
せくな
項武
まずは
五丈内の
反核諸勢力を結集し
将軍には その盟主に
なってもらい
偽帝を討つ
しかる後
五丈最大の
実力者として
五丈を継ぐ形で
新国家を建てる
そして
練・智を
滅ぼすのが
統一への
道のりだ
戦の連続だが
勝算は
十分ある！
まずは
将軍に
各太守・
諸将あての
決起を促す
檄文を
書いてもらう

次に
外交で
練と智を
封じ込める

特に練は
以前 骸羅たちと
通じていた
ほとんど死に体の
同盟だが
復活の可能性は
あるからな

我々は
行く先々で
反骸羅勢力を
吸収し
斉王都に向かう

同時に
骸羅軍内の
内部攪乱をも
策する……
問題があると
すれば……

時間だな

そうだ
対骸羅戦は
短期決戦で
なければ
ならん！

先にも
言ったように
智と練が
常に我々の
隙を狙って
いることを
肝に命じておけ

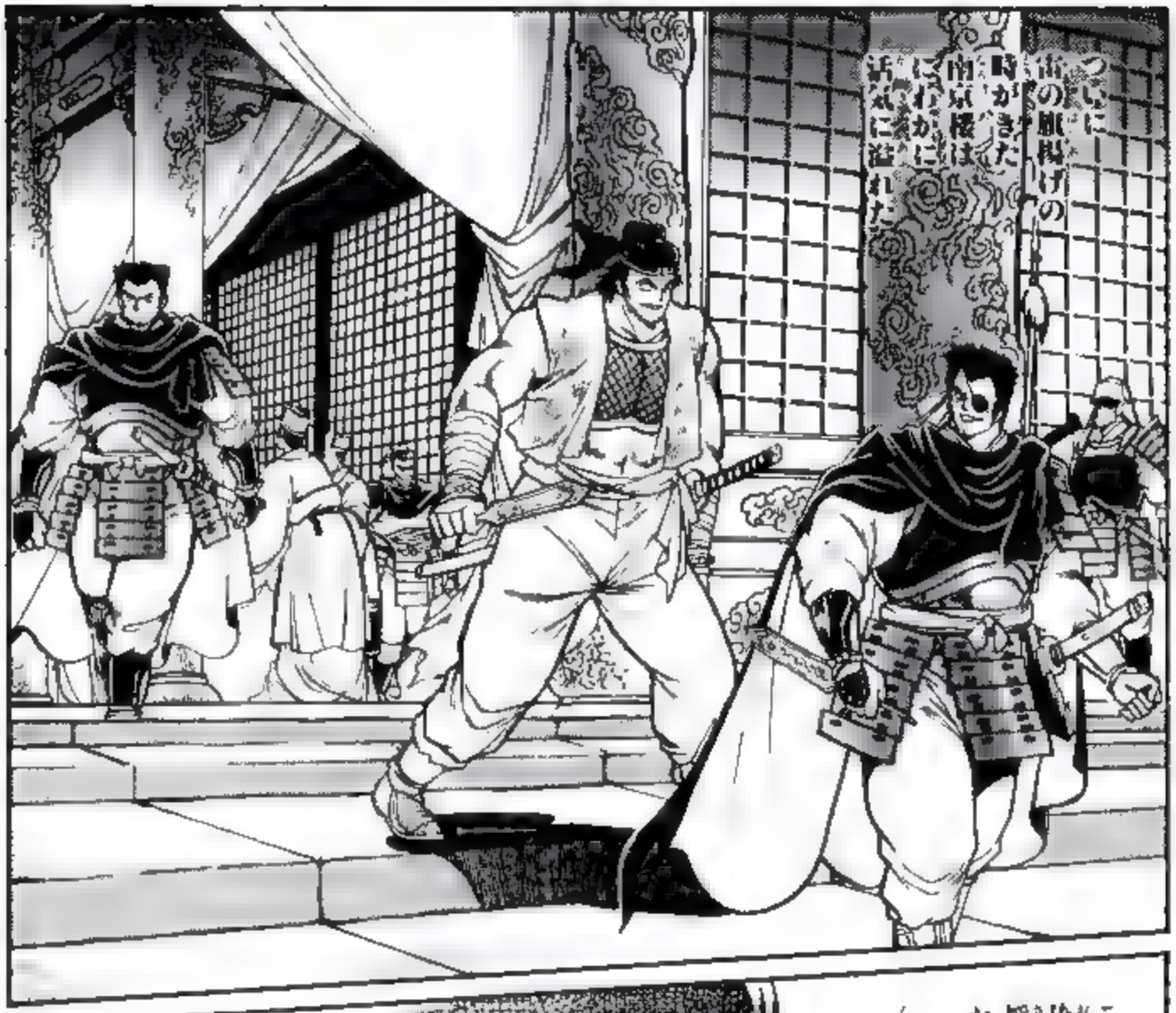
奴らも
この天下の変を
好機に
必ずや五丈に
干渉してくる

六十日だ！
軍を起こして
六十日以内で
五丈を制圧するんだ！
六十日か……
あの強大な五丈を
六十日で
倒すのか……
こいつは
厳しい戦いに
なるぞ……
みんな聞け！
出陣は五日後
南京楼軍十万
全軍をもって
出陣する！
各将は
準備しろ!!
おうっ!!
項武！
先鋒をまかせるぞ！
兵二万を連れていけ!!
おおっ
任してくれ!!

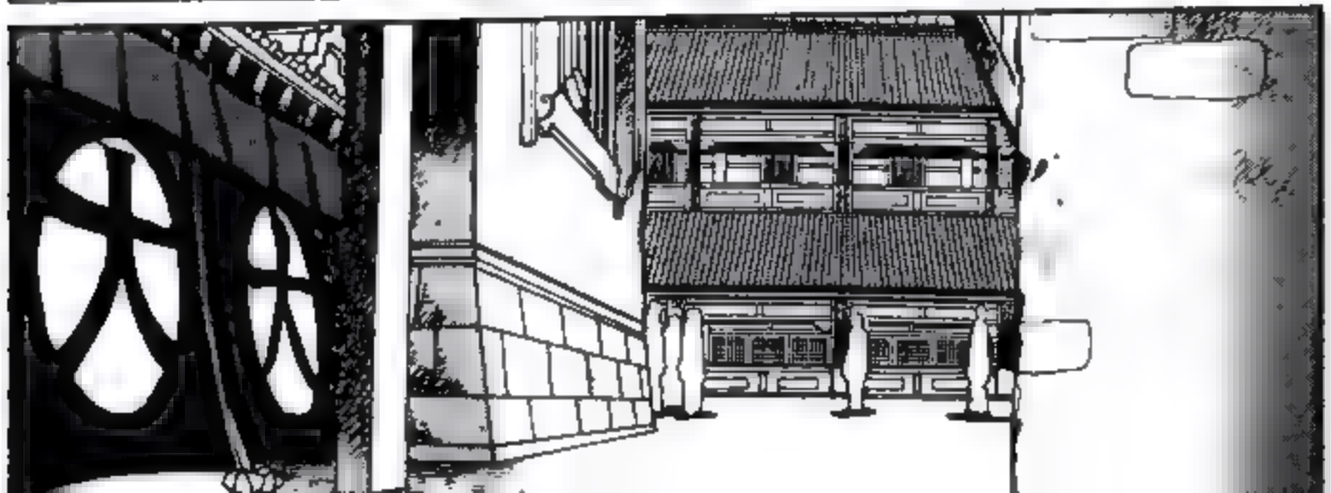
項羽！
鐘士元！
桃文！
三人には
兵一万ずつ
任す！
第二陣として
備えろ！
わかりやした！
出陣の準備は
整っています
いつでも
ご命令を!!
俺と孟閣で
兵五万を率い
本陣とする！
軍師は
俺と共に
きてくれ！
当然だ
三楽斎
南京楼は
頼むぞ
練や智の
動きに
注意しろ
お任せを
心置きなく
戦って下さい

将軍！
三楽斎は
本来は官僚です
練や智を相手に
国元を守るには
向かないのでは？
いや
彼以外では
無理だ
残せる兵力は
数千
どんな勇将でも
これでは
南京楼を
守りきれまい
ここで
必要なのは
智や練を
相手にしての
臨機応変の
外交能力と
弁舌の力だ
何せ
竜我将軍の
ご夫人をはじめ
多くの将兵の
家族を預かるんだ
戦うだけが能では
勤まらんだろう
なるほど……
合点が
いきました
すまんな
三楽斎
それから
林則嘉
は……
はい!!

この間のお前の天下取りの方策よくできてたぞ
十分参考になった
い…いえそんな……お誉めにあずかり恐縮です
お前の進言通り途中で武王都に寄り必ず弾正様の喪に服そう
これから師真と共に俺にいろいろ教えてくれ
頼むぜ！
は…はいが…がんばります!!
よし評議はこれまで！後は行動するのみ!!


ついに
街の風揚げの
時がきた
南京楼は
にわかに
活気に溢れた

こんなグズの
俺の意見を聞いて
採用してくれる
なんて…
どこまで
やれるか
わからないけど
とにかく
がんばろう!



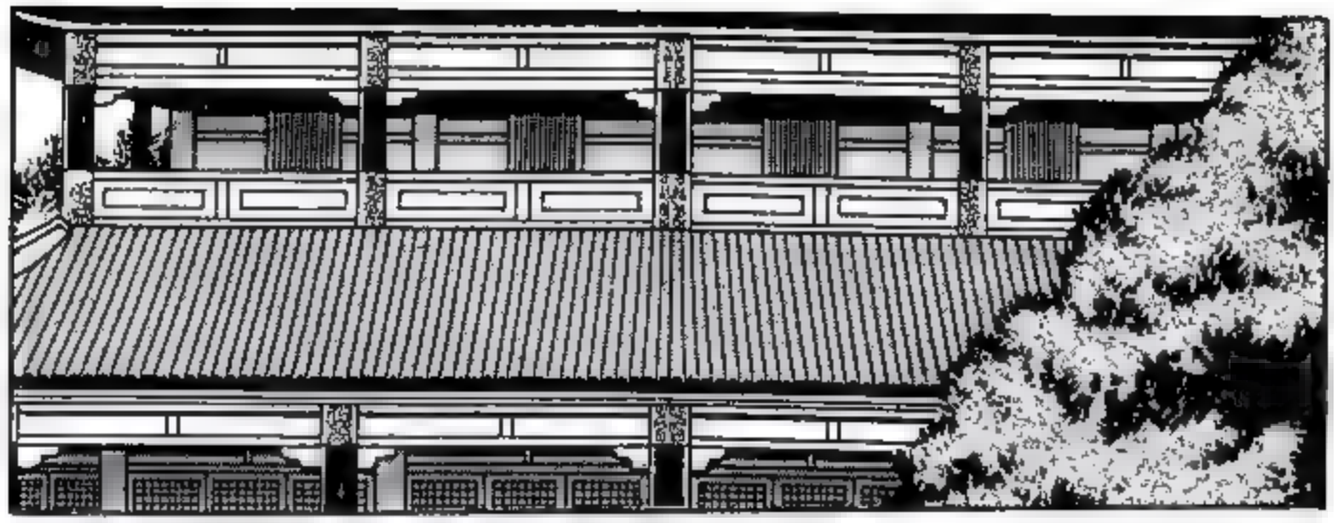
皆の衆
いよいよ
竜我将軍が
旗揚げなさる
そうだ
昨日 内々に
我々町衆に
協力要請が
あった
戦か……
軍資金
兵糧の確保・輸送
など
全面支援を
頼まれている
我々も
早急に結論を
出さねば
ならん
骸羅軍は
混乱している
とはいえ
数百万
南京楼軍は十万
話にならんのでは
ないか
確かに竜我将軍は
戦上手かも
しれんが
肩入れ
しすぎるのは
少々無謀で
あろう
しかし
中央からの課税は
日増しに
酷くなってきて
いるという
それを
断り続けた
太守には
借りがありますぞ
しかし
負ければ
協力者として
我々も
罪を問われる
ことになる
それだけは
ごめんですな

お待ち下さい
僭越ながら病の父に代わって申し上げます
竜我将軍は一代の英傑です投資して我々に損はないと思います
では英真殿はこの度の出陣に勝算ありと言われるのか
初めてお会いした時から将軍はただならぬお方だと思いました しかも天の時・地の利・人の和いずれも得ています
兵数だけの偽帝軍など物の数ではございません
もちろん我々の協力が必要ですが
どうでしょうここら辺で銀河の大乱を治める英傑にご登場願いましょう
天下安泰こそ我々商人の理想の商いの場ではありませんか

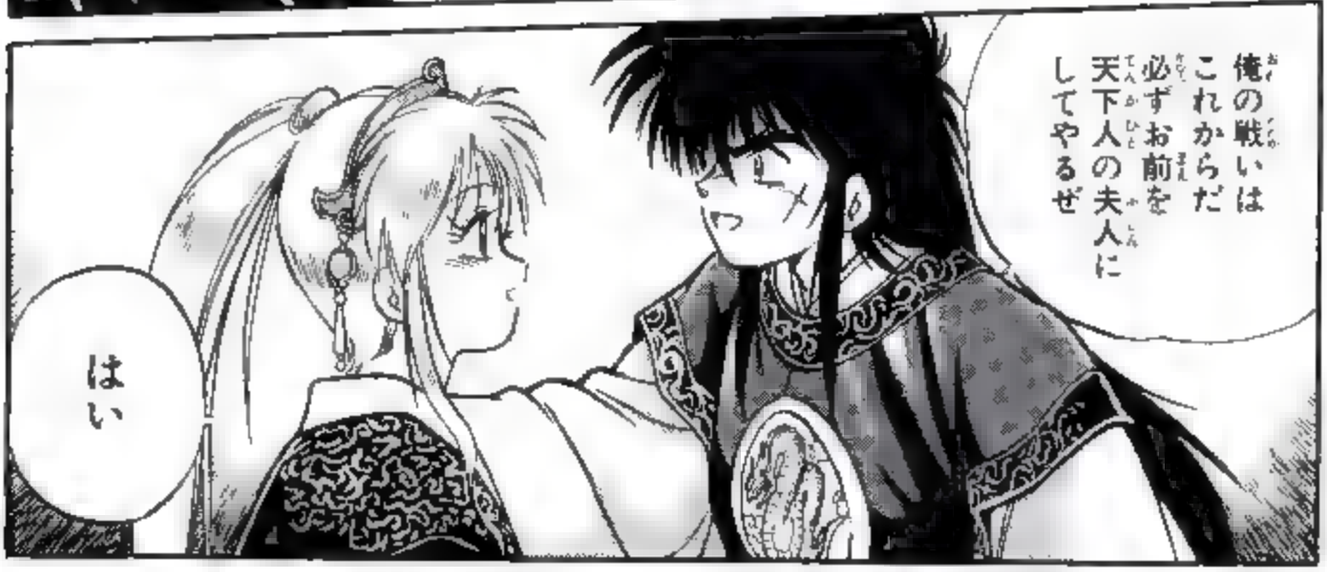
うむ
まさに……
骸羅の元では
それは望めまい
結論が
出ましたな
ではただちに
登城して
町衆としての
結論を
お伝えして
きましょう
よろしく
兄さん
期待して
ますよ！
♫♪ー
太助！

あ
兄き!!
韓が出るな
ちょいと
来てくれないか
おう
来たな
一つ頼みが
あるんだ
ほんと?
おいら
兄きのため
何でもやるよ!!
太助
今から
斉王都に
行ってほしい
もちろん
隠密にだ
ええ?
そんな…!!
それじゃ オイラ
手柄立てられない
じゃん!!
やだよ!
絶対に!!
いや
俺の計画通り
動いてくれれば
第一の功は
お前のもんだ
その舌で
一人の敵将を
葬ってほしい
舌で?

斉王都にもぐり込んだらな……
ふんふん
あ
な――るほど
やってくれるか太助
ま――かしといておもしろそうじゃん！
たが敵の本拠にもぐり込むんだ危険は大きいぞ
どこだって危ないのは同じだよオイラ兄きのためにがんばりたいんだ！
よ――し頼むぜ!!
おお――っ!!



いよいよ
挙兵の時だ
これからは
ますます苦労を
かけることに
なるな
いいえ
とんでもない……
ご武運を
お祈りいたします


俺の戦いは
これからだ
必ずお前を
天下人の夫人に
してやるぜ
はい

ことは
言ったものの
新婚早々で
こりゃ
つれえな——
ま
留ったら
もう！
そうだ
一つお願いが
あるの
ん
何だ？
麗羅を……
麗羅を必ず
助けてあげて
麗羅を？
けどお前
あいつに
ひどい目に
会わされた
じゃねーか
ううん
気にしてない
から
だって彼女
五丈王宮内じゃ
ただ一人の友達
だったんだもん

ふ……
優しいんだな
紫紋は……
任せとけって
蟹海にも
頼んであるし
もちろん
俺も直接
出向いて
助けてくるよ
ごめんなさい
無理なお願い
しちゃって
いいき
さあ 酒の支度を
してくれよ
はい
しばしの
別れだ
今一度
舞って
くれるか
俺一人の
ために

比紀弾正の死から
すでに
四年が経とうと
していた

五丈原辺は
にわかに荒れ
戦乱の風が
吹き荒れようと
していた

偽帝討伐！
雷の檄文は
五走谷王に飛んだ

殿
南京楼よりの
急使は
何と言って
きたのですか?
ううむ
あの若僧
とんでもない
ことを……
竜我が
帝討伐の
兵を挙げた
そうじゃ
挙兵で
ございます
か!?
我々にも
参加して
ほしいと
ある
いかが
いたそうか?

それは
よき誘いと
思います
新帝の即位は
あまりにも強引！
民も納得して
おりません
いいや
わしは反対だ
まるっきり
勝算がない
ではないか
そうじゃ
帝には八百万からの
精鋭がついておる
話にはならん
叩き潰されるのが
おちじゃ
ならば
貴公らは
あの偽帝の
やることに
見て見ぬふりを
決め込む
おつもりか!!
しいっ
声が高い！
めったな
ことを
口走るな！
とにかく 殿
しばらく
様子を見て
我々の態度を
決めましょう
急いては
事をし損じると
申します
もし
南京楼軍の
勢いが強ければ
我々も腰を
上げましょう
殿と竜我とでは
格が違います
必ず殿が竜我を
従えるように
なりましょう

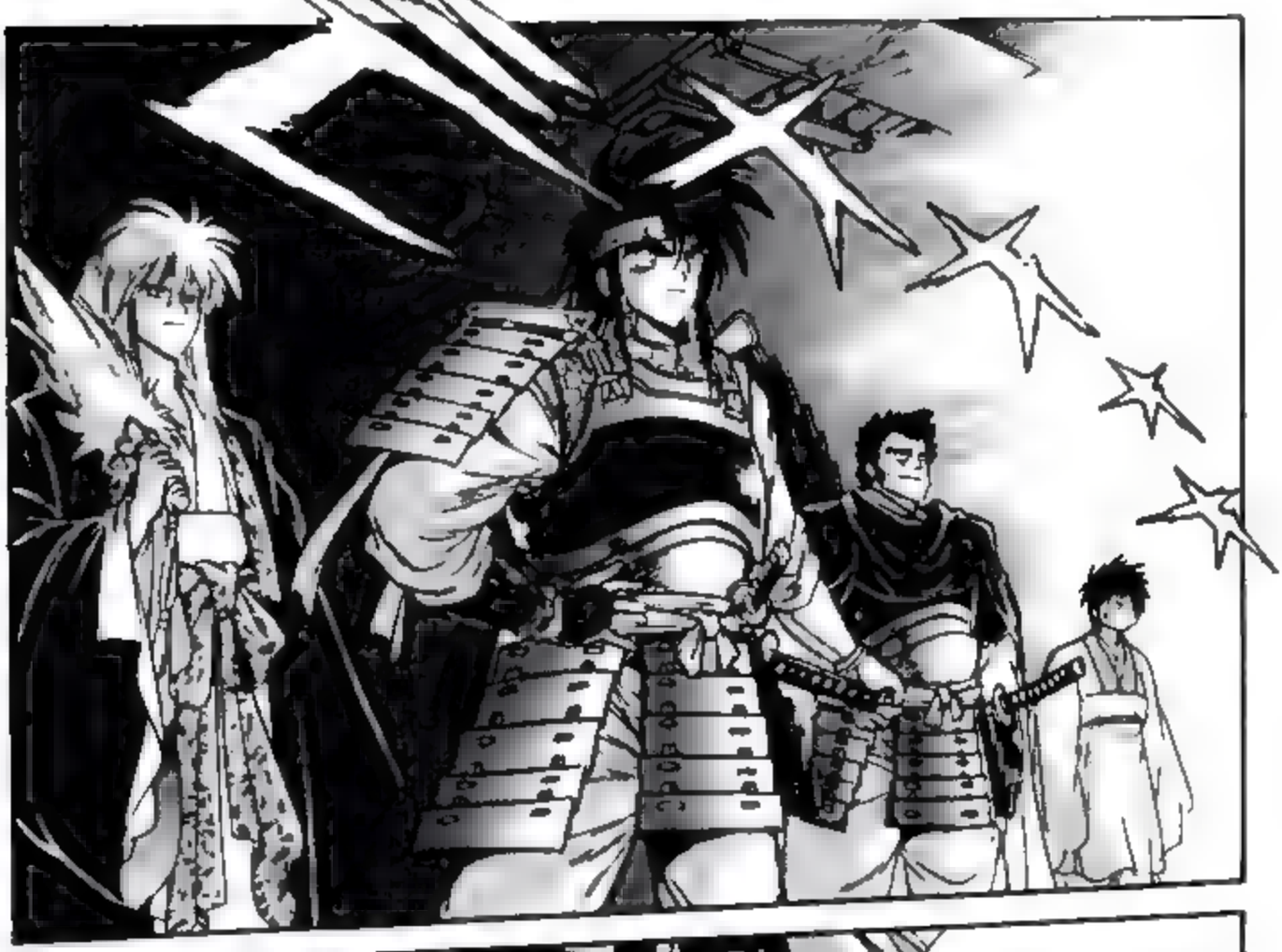
また
五丈軍有利と
あらば
我らも討って
出て
誰よりも先に
南京楼を
陥しましょう
さすれば
帝の覚えも
めでたく
殿は出世
間違いなしです
おお
そうか
そうか
ならば
急ぐことも
あるまいて
それがよう
ございます
恐らく
他の諸侯とて
同じでしょう
……
ではとくと竜我の戦い方を拝見いたすとするか
こうして雷の檄文を受け取った諸侯の多くは日和見を決め込んだ
未知数である雷の力を見定めようというのである

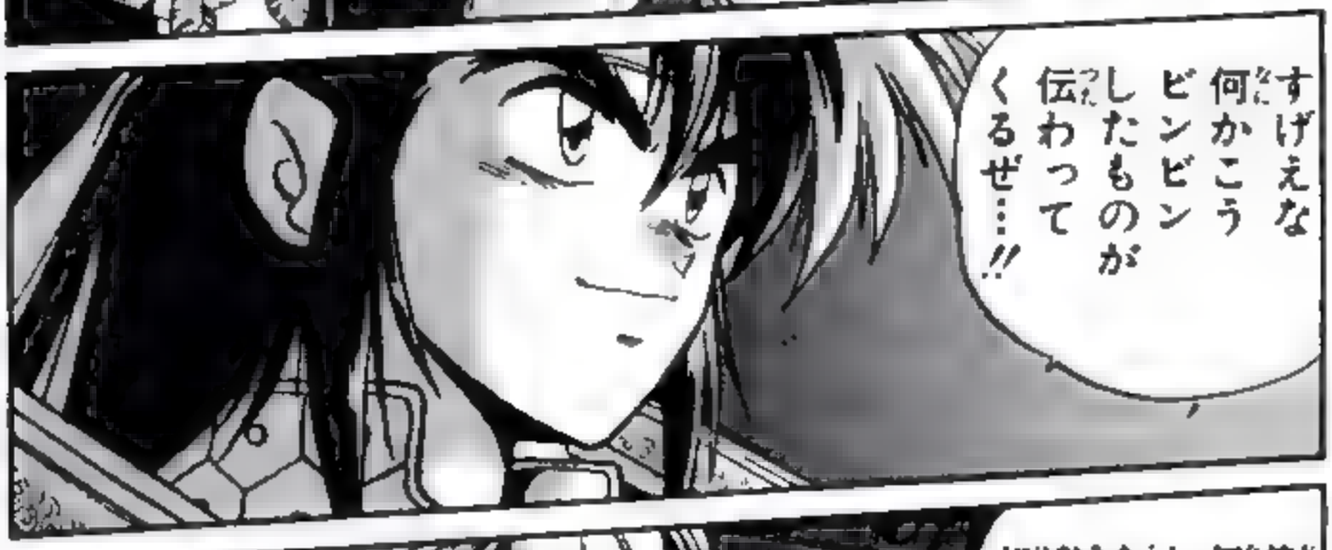
竜

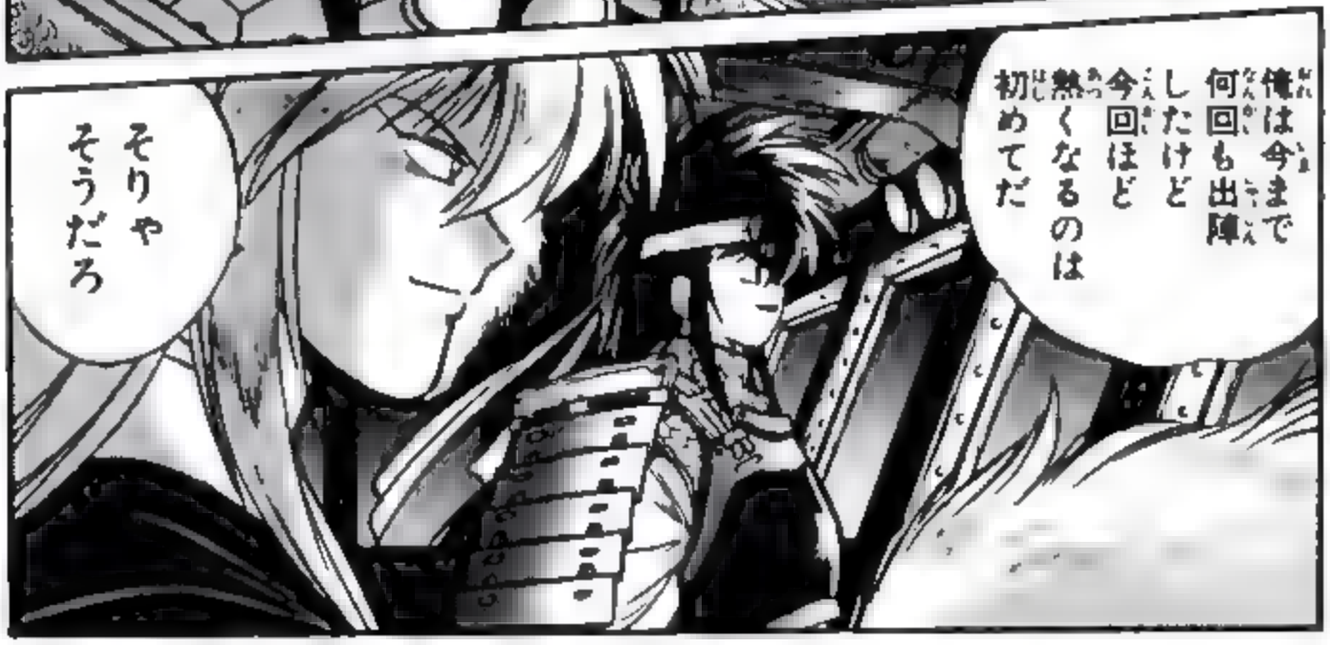
猛将
項武率いる
万の軍勢を
先頭に……
阿一丸……
項文……

そして項羽といずれも騎当千の武将が続いた

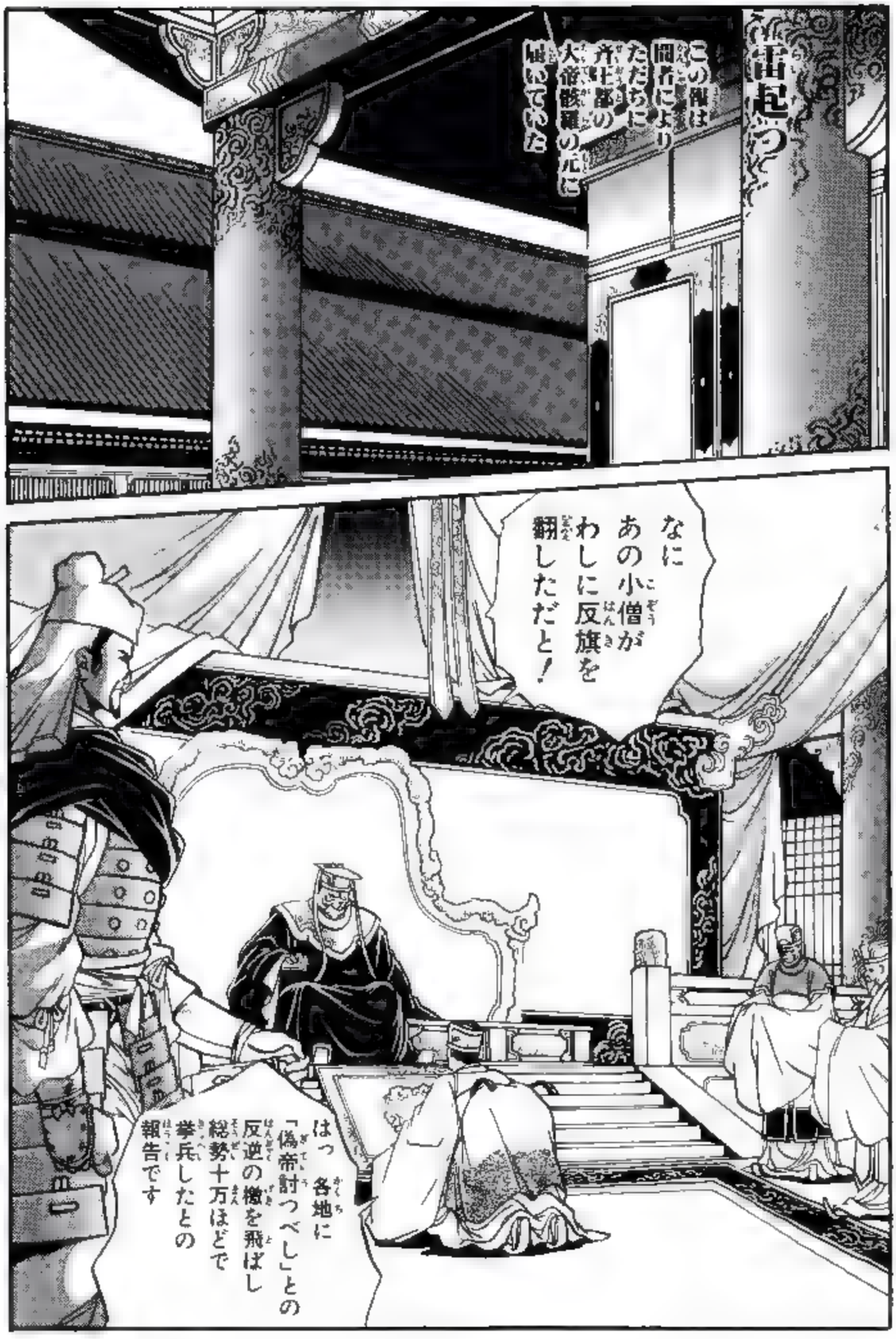
その威風堂々たる進軍を目にして……
項
信の胸に熱い闘志が沸き立ったのはいうまでもない




すげえな
何かこう
ビンビン
したものが
伝わって
くるぜ…!!


俺は今まで
何回も出陣
したけど
今回ほど
熱くなるのは
初めてだ
そりゃ
そうだろ

いよいよ
天下を相手に
するんだ
男だったら
熱くならなきゃ
うそだぜ
おまえも
そうか
師真
バカぬかせ
俺の知性は
そーいうのとは
別の次元に
あるんだ
一緒にするな
へっ
よく
言うぜ！
何だよ……
よーし
俺たちも
前進だ!!
斉王都まで
一気駆けだぜ!!

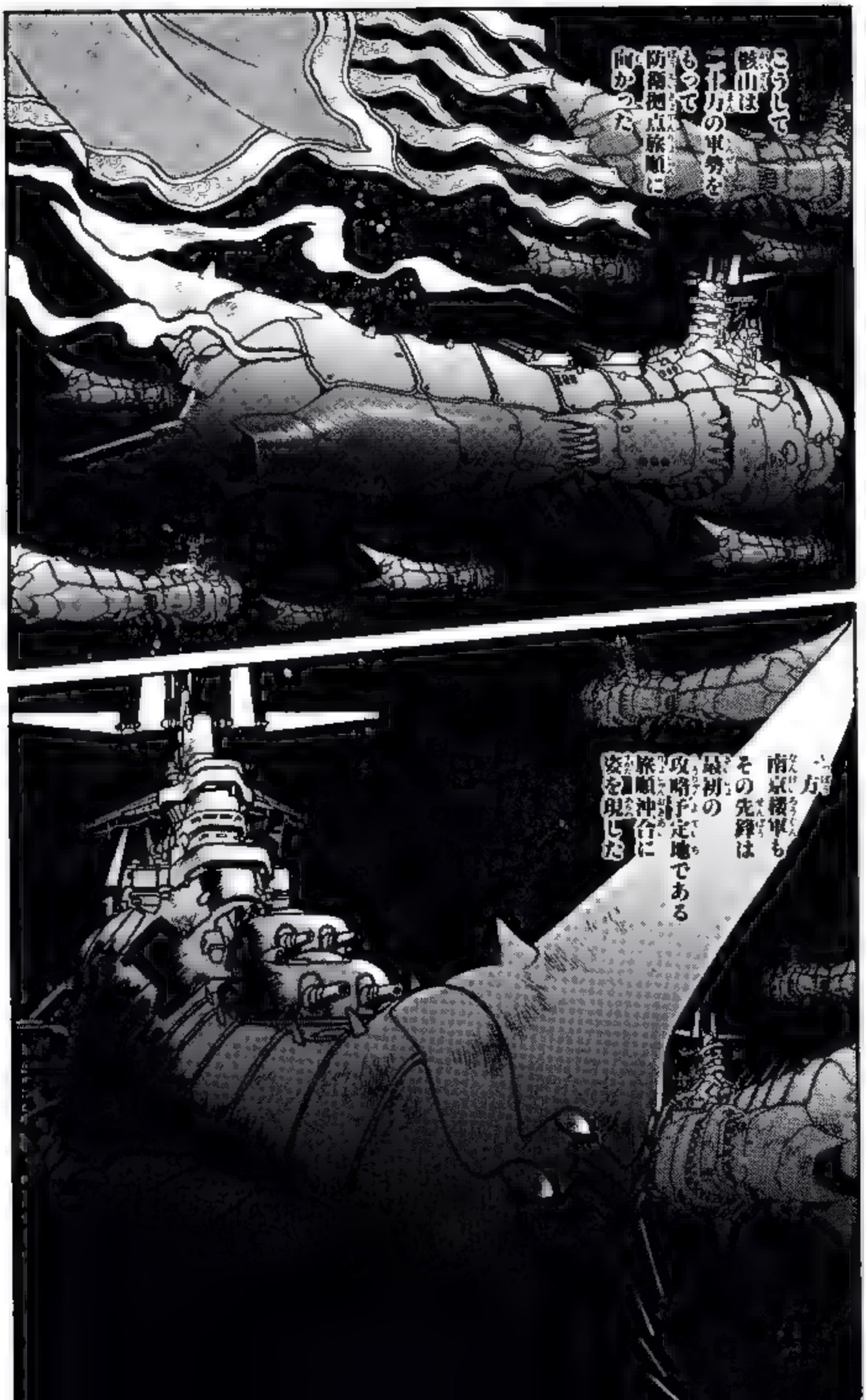

雷起つ
この報は
間者により
ただちに
斉王郎の
大帝骸羅の元に
届いていた
なに
あの小僧が
わしに反旗を
翻しただと！
はっ 各地に
「偽帝討つべし」との
反逆の檄を飛ばし
総勢十万ほどで
挙兵したとの
報告です

十万だと～～～
そんなちっぽけな
手勢で何ができる
バカな奴よ！
まことでございます
陛下に弓引こうなど
小人の考え
まともな人間の
考えることではありません
竜我など
小さなダニの
ようなもの
指先で
弾き飛ばすことは
たやすいでしょう
近くの旅順に
馬元宇が
おるだろう
奴にでも
相手させろ
奴には
三十万ほど
まかしておる
お待ち下さい
陛下
丞相・骸延

どうした
骸延
意見が
あるのか？
竜我を
あなどっては
いけません
馬元宇などでは
歯が立ちません
ここは
しかるべき
上将を
援軍として
旅順に派遣
すべきです
ふふん
お前は
あの小僧を
えらく買って
おるな
陛下が
竜我を甘く
見過ぎている
のでございます
のう狼刃殿
貴殿も
そうは
思わぬか
丞相殿
なぜ竜我を
そのように
恐れます？
買いかぶりも
度が過ぎると
全軍の士気にも
関わってきますぞ
左犬元師・狼刃

ふん
ならば
竜我の処置は
お主に
任せたいのう
以前
部下だった男を
上司が処分
するのが
筋道だ
……
かばいだては
許さんぞ
狼牙……!!
兄上
私が
参りましょう
しばらく
体を動かして
おりませぬし
部下の
いい実戦訓練にも
なります
何とぞ
お下知を!
右大元帥・骸山
骸山か
まあ
よかろう
あの小生意気な
ガキの首を
挿めるのなら
誰でもよい
骸山
演習代わりに
行ってこい

ははあっ!!
兄上
油断はゆめゆめ
禁物ですぞ
奴はただの
若僧では
ありません
わかった
わかった
そちは心配
し過ぎるぞ
丞相として
国の小さな
ことにまで
心を尽くすのは
わかるが
戦は我々に
任せておればよい
な――に
一ひねりで
おしまいよ
いつまでも
狼刃ばかりが
目を掛けられて
たまるかって
てんだ!


こうして
骸山は
二十万の軍勢を
もって
防衛拠点旅順に
向かった
一方
南京攻略軍も
その先鋒は
最初の
攻略予定地である
旅順神台に
姿を現した

五丈要塞 旅順

旅順要塞指揮官　馬元宇
わしとしては
将軍を待って
要塞の火力と共に
逆賊を討とうと
思っていたのだが……
よ…よし
出陣じゃ!!
将軍
骸山元師より
何と?
えらく
おしかりの
文面じゃ
敵を目前にして
一度も戦わぬとは
何事
軍法で裁くと
えらい剣幕じゃ
しかし命令とあらば
出撃いたしましょう
私めに
先陣を!
ははっ!!

馬元に率いる
脈順軍は
副将十公を先陣に
全軍討って出た
ズズズズズ
項武様
敵軍が
討って出ました！
大軍です!!
よーやく
重い腰を上げたか
逃げる算段でも
してるかと
思ったぜ

ようし 野郎ども！ 竜我将軍に 俺たちの力を 見せる時が きたぜ!!
おうっ!!
突撃だ――っ!!
おさはじい 国取戦の後 かくふり四つに 組んでの 日本戦となった

どけどけ
——っ!!
南京楼軍の
項武様とは
俺のことだ!!
覚えて
おけ——っ!!

ひいっ
怪物だ!!
お助け!!
逃げろ!!
ハカ者
敵を目の前にして
逃げるバカが
あるか!
戦え!!
ならてめえが相手しな!!
む…むむ!

な…何
呂公が
討たれただと！
はっ
先陣は総崩れ
第二陣第三陣も
ことごとく
破られました〃
中軍も破られたと
申すか〃
ぞ〜〜〜っ
敵将項武
恐ろしい男です
この本陣も
危険です
た…退却じゃ！
要塞内で
陣を立て直す
のじゃ〃

項武将！
敵が総退却を
始めました！
何てえ
もう終わりかよ
逃がすな
追うんだ!!
ひいい
助けてくれ

将軍が危ない！
撃ち方始め――っ!!
すごい弾幕です
砲弾の雨です!!
ちっ!!

た…
助かった……
将軍
しっかり!!
ちくしょう
逃げられたか!
かまわねえ
一気に要塞内に
突入だ!!
項武様!
将軍より
ご命令です!!
何?
「深追いするな
軍を退け」と!
何だ
とお――っ!!
バカな……
追伸です!!
「いいから
言うことを聞け」
……

いったん軍を退いた項武は旅順の周囲に艦隊を展開し要塞を封鎖した
一方敗れた馬儿李は自信の戦力を持ちながら要塞に籠もり援軍の到着までを待をひそめていた
これでいい
項武の攻撃はあくまでも敵を要塞内に閉じ込めるためだ
項武はぶりぶり言ってるそうだ
初陣ですからな無理もないですな
いや文句は言わなくなるよこれからはな

ん？
将軍項武もそうだがこの旅順戦我々にとっても初陣とても大事な戦だ
そりゃそうだここで勢いをつけたいし第一士気がちがってくる
いやいやもっと大局的に見るんだ
この一戦勝ち負けなどわかっている
問題はいかに派手に見てる奴の度胆を抜く勝ち方をするかだ
なんで勝ち方にこだわるきれいごとじゃないぞ戦は！
理由は三つ
一つは日和見を決め込んでいる他の諸侯の目を覚まさせることだ
連中が危惧してる兵力差など吹っ飛ばしてくれる勝ち方でな

もう一つは
智と練に対する
牽制だ
もし介入したなら
高い通行税を
払うことになると
理解させるんだ
そして
第三に
命令への
絶対服従を
我が軍の将兵に
徹底させる
ことだ！
我が軍の将兵の
中には
実戦経験のない俺を
軽く見てる奴がいる
いざ戦になると
自分たちの方が
正しいとな
これでは命令を
出しても無駄だ
軍師！
いや
いいんだ
それは
仕方がない
だが
この戦いを
経験すると
俺を畏敬する
ようになる
俺の戦い方に
従うことの正さを
知るだろーよ

なるほどな……
確かに大きな意味を持つ緒戦だな
よって俺の策は常道をかなり外れたものにするつもりだ周りに対する視覚効果もばっちり考えてな
…で貝のように閉じ籠もった敵に対してどーいう策がある？
火だ火攻めだ！

竜
申し上げます
斥候によりますと
骸羅軍の一軍が
旅順増援のために
接近しているとのことです
何！
誰の軍勢かわかるか！
旗印によると
骸山と思われます
兵力は約二十万！
骸山!?
これは恐らく
骸延の差し金だろう
偽帝の側近て
俺たちを恐れているのは
奴だけだ
だから
偽帝の弟たる
骸山を投入し
圧倒的兵力で
一気にカタをつける気だ
想像以上の大物だが……
まこれも計算の内だ
役者がそろったな

旅順への火攻めは俺がやるが骸山の方は将軍にまかすぜ
その時は恐らく戦意喪失状態だろう大したことはない
それはいいが火攻めってどうする気だ相手は三十万の軍勢だぞ
今回の戦は常に我々に先攻の利があるどこを何時攻撃するというな……
旅順を最初の攻略目標に選んだのもここの舞台装置が整っていたからだ
つまり罠を張り易い地形がな……あれを見てみろ
ん？
どれのことを言ってるんだよ
賢い奴があるだろう小さい奴だ

だが
火遊びには
手頃な大きさよ
ああっ!!

何？
項武が兵を
退き始めたと？
はっ
包囲を解き
北方へ移動を
開始しました
将軍
恐らくこちらの
援軍が到着したため
慌てて移動した
のでしょう
今追い討ちを
かければ
簡単に
討ち取れますぞ
よ…よし
出陣じゃ
緒戦の恥を
そそげ！
ご…ご注進!!
一大事で
ございます!!
な…何じゃ
敵は退いて
おるのだぞ
何が起こったと
いうのだ

ひ…火です……
火が迫って
おります…!!
火?
何を言って
おる?
本当です!
巨大の火の塊が
この旅順に迫って
いるんです!!
この旅順を
一呑みにする
ぐらいの…!!
バ…バカな
な…何を
寝惚けておる!!
そんなバカな
ことがあるか!!
ええい
騒ぐでない!!
将軍
あれを…!!
おおっ…!!

こ…これは
いや
こんなことが
あるわけが……
この旅順と
三十万の軍勢を
焼き尽くそうと
いうのか……
これが
竜我の仕業
だとしたら……
人間ではない
魔人のなせる
業だ!!

「偽帝討つべし」のかけ声と共に
帝都目指して突き進む雷率いる南京楼軍
戦いは熾烈を極め
血肉相討ち
鋼鉄の風が
銀河に
吹き荒れる！

俺は迷ってなんかいない!!
次々と雷の行く手に立ちはだかる
誰か逆賊の首を取る者はおるか!
智将・猛将たち
男達の戦いが宇宙を朱に染める!!
忘れ得ぬ人との出会い……
そして知る、恐るべき事実!
小細工はするなとな
竜我!!
全銀河が注目する中
今こそ雷の真価が問われる時がきた!!
刮目して第9巻を待て!

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ ⑧

1993年10月12日　初版発行
1994年 8 月25日　7 版発行

著者　真鍋譲治

発行者　角川歴彦

発行所　株式会社メディアワークス　〒101　東京都千代田区神田神保町2-22-11　カンナビル　電話03-5276-2433(編集)

発売元　株式会社主婦の友社　〒101　東京都千代田区神田駿河台2-9　電話03-3294-1130(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　大日本印刷株式会社

©JOJI MANABE 1993

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3269-5784)にご連絡ください。

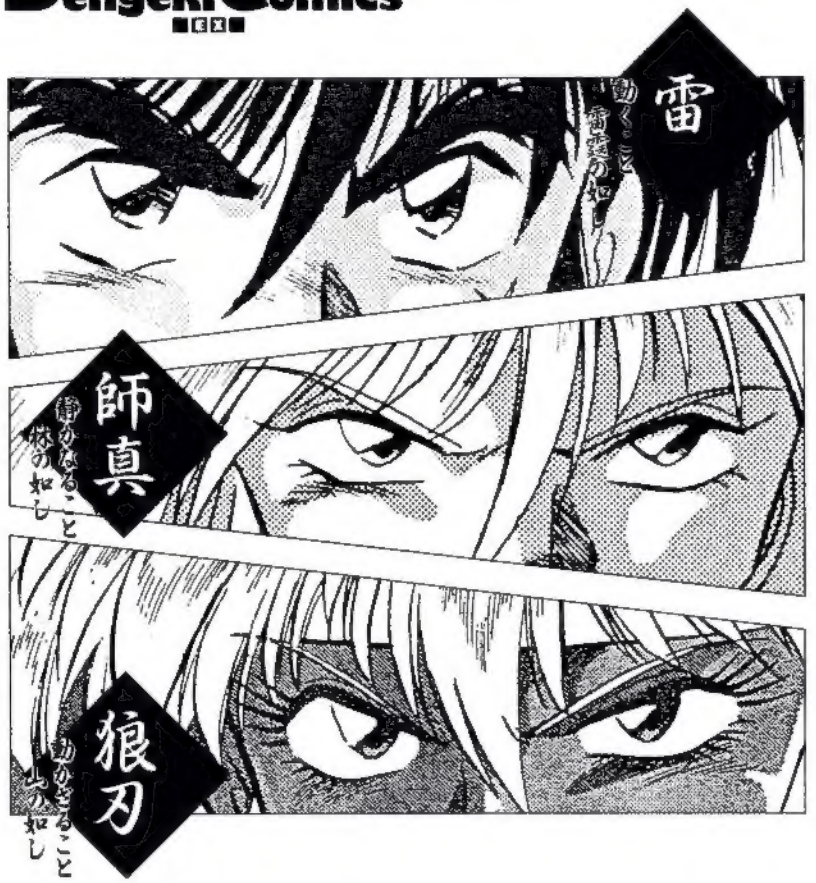
Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊コミックコンプ '92年11月号～'93年 1 月号(角川書店刊)　月刊電撃コミックGAO！'93年 2 月号～ 4 月号(メディアワークス刊)

ISBN4-07-300370-4 C0379

Dengeki Comics EX



天下を睨む

眼光凛として

銀河戦国群雄伝

ライ

真鍋 譲治

電撃だから読める!!

DENGEKI COMICS EX

『銀河戦国群雄伝ライ』

①～④⑦⑧A5判好評発売中

⑤⑥巻同時発売!!

発行●メディアワークス 発売●主婦の友社

書店で
毎月27日絶賛発売
毎月のライの活躍から目を離すな!!!
前代未聞の
超豪華作家陣!!!
メビウスクライン……麻宮騎亜
魔狼王烈風伝……沢田 翔
爆れつハンター 原作あかほりさとる 作画臣士れい
緋翔伝~幾千の月のかけら~…夢来鳥ねむ
エンジェルアーム……衣谷 遊
トライアルかおる!…山本よしふみ
ローンナイト2……吉富昭仁
星刻の騎士スターズ・オブ・サミュール…羽衣 翔
最終機攻兵メタルスレイダー
グローリー~エイミアの面影~…☆よしみる
電撃アイドル戦隊
ガオレンジャー…いづみひろの 他
月刊電撃コミック
GAO ガオ
発行:メディアワークス
発売:主婦の友社
大銀河戦国絵巻!!大人気連載中!!!
銀河戦国群雄伝
ライ
真鍋譲治